公益財団法人千里文化財団
令和４年度　事業状況報告書

■　令和４（2022）年度　事業状況報告 ―――――――― 1

■　令和４（2022）年度　収支決算報告 ―――――――― 29

■　令和４（2022）年度　理事会及び評議員会開催状況 ―――――――― 42

公益財団法人千里文化財団

■ 令和4（2022）年度事業状況報告

当財団の目的は、「文化人類学・民族学等の振興を図るため、関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、地域社会に根ざしつつ、ひろく国際社会に貢献することを目的とする。」と定められ、その目的を達成するための各種事業を推進するとともに、現代社会の諸問題を解く鍵として、文化人類学・民族学の視点を活かし、国立民族学博物館（以下文中の「民博」、「みんぱく」は省略表記）をはじめ各種研究機関と連携し、文化振興や次世代育成等さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

当財団の 2022 年度の事業状況は、新型コロナウィルス感染症の周期的な感染拡大の影響により、民博の臨時休館は実施されなかったものの、当財団が運営している民博友の会会員を対象とした海外での民族学研修の旅は全面的に、国内での体験セミナー及び見学会等の開催を一部見合わせた。上半期の来館者数は伸びず、ショップ事業及び会費収入の大幅な減収傾向が続いた。その対策として、ショップ事業職員、友の会事業等職員については部分休業をおこない雇用調整助成金を引き続き申請した。しかし年度末になって、令和5 年の春の特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」への来館者の増加により、ショップ事業収入の減収はゆるやかに回復しつつある。

新規の事業について、2025 年の万博開催に向け、前年度より開始した、1970 年万博の文化的遺産を継承してゆくためのシンポジウムも予定通り開催しました。このシンポジウムは、EXPO'70 が生み出したレガシーである民博と万博記念公園が協働でおこない、それぞれの存在意義と、2025 年万博のテーマと開催意義について有識者が議論を深める場として企画・開催したものである。また、昨年来のウクライナ情勢を踏まえたウクライナをテーマにした講演会の実施、『季刊民族学』での関連記事を企画し掲載した。

2022 年度の重点的な取り組みとして掲げている、文化多様性の視点でＳＤＧｓを考察する事業として、多様なテーマでの講演会の企画や『季刊民族学』の発行以外に、食資源と食文化の持続可能性を探る書籍『有明海のウナギは語る』、書籍『図説焼畑の民―五木村と世界をつなぐ』の発行等をおこなった。
また 2022 年度は、巡回展を高知県南国市、石川県七尾市、東京都渋谷区で実施し、地方等の博物館の要請に応え、地域の文化振興に貢献した。

2022 年度新型コロナウィルス感染症に伴う対応について

1）事業縮小によるショップ事業職員及び友の会事業等職員について雇用調整助成金を申請し受理された。
2）友の会会員へのサービスである民族学研修の旅、体験セミナー（一部）など、館外での催しが実施できなかった。館内での講演会については、一部見学会を除き、オンライン併用で博物館活動の指針に基づき再開した。新たなサービスとしてオンラインサロンを開始した。

2022 年度の重点的な取り組み

（1）会員増強に向けた広報及びサービス事業の拡充
（2）文化多様性の視点でＳＤＧｓを考察する事業

1. 文化人類学・民族学等普及事業

一般市民を対象に文化人類学・民族学の普及のため、国内唯一の文化人類学・民族学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施

1) 「梅棹忠夫アーカイブズ資料の整理及びそれに基づく基礎データの整備並びに支援業務」に協力した。
別紙 1 参照

2) 文化人類学・民族学の研究促進・普及を目的とした図書の企画として、家庭学術雑誌である国立民族学博物館友の会機関誌『季刊民族学』4 号（180 号～183 号）を編集・発行した。
※広報普及活動として、172 号から、書店での取扱いを促進するため書籍取次会社を通して全国の書店への配本をはじめた。　別紙 2、3 参照

3) 文化人類学・民族学の普及を目的とした各種講演会・セミナー等を企画・運営した。
講演会（大阪 12 回、東京 3 回）、見学会 1 回、体験セミナー1 回を実施　別紙 4 参照

4) 関連分野の研究活動の普及を目的とした事業の協力
第 40 回人文機構シンポジウム「人類妄想進化論―文学はいかに地球社会を共創するのか？」実施支援業務
開催日：2023 年 3 月 25 日（土）13：00～16：00 開催場所：京都府立京都学・歴彩館

2. 国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用促進を目的として、一般市民を対象にした各種協力事業を実施

1) 国立民族学博物館特別展等解説書（図録）の編集協力、発行
書籍『図説焼畑の民―五木村と世界をつなぐ』を発行した。（2023 年 3 月 31 日発行）
※2022 年に国立民族学博物館で開催された企画展示「焼畑―佐々木高明のみた五木村、そして世界へ」の資料をもとに製作した。　別紙 5 参照
国立民族学博物館特別展図録『交感する神と人―ヒンドゥー神像の世界』の編集協力をおこなった。（継続中・2023 年 8 月発行予定）

2) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作及び頒布事業
ミュージアム・ショップの運営：国立民族学博物館刊行物の頒布、現地産民族資料及び文化人類学・民族学関連図書の頒布、オリジナルグッズ等の制作及び頒布をおこなった。　別紙 6 参照

2022 年度教材頒布の取扱い内容：
□国立民族学博物館刊行物
内容）『展示案内』、特別展及び企画展の解説書・図録、『月刊みんぱく』、紀要類等
□文化人類学・民族学関連図書・映像音響資料
内容）図書約 4,000 種、民族音楽等のＣＤ・ＤＶＤ約 50 種
□レプリカ、ポストカード類：
内容）砂金の分銅等レプリカ、ポストカード等
□記念品（オリジナルグッズ）、便宜共用品
内容）ノートブック、クリアファイル、一筆箋、レターセット、Ｔシャツ、スタンプ、トートバッグ、マグカップ、クッキー、マスキングテープ、ボールペン、切手類、雨傘他
□現地産民族資料（約 100 カ国）
内容）芸能・儀礼資料(仮面、楽器他)、生活資料(衣類、嗜好品、装飾品他)

3) 国立民族学博物館の普及事業を各種実施した。
「国立民族学博物館友の会」の運営：国立民族学博物館並びに文化人類学・民族学の普及を目的に、国立民族学博物館と市民のあいだのかけはしの役割を担う友の会を組織し、博物館の活動を支援するとともに、市民の博物館活用を促すことを目的として運営している。
①「国立民族学博物館友の会」会員の増強　別紙 7・別紙 8 参照
2023 年 3 月末現在の件数：維持会員 90 口（法人 44 社/個人 3 名）、正会員 1,252 件、
家族会員 39 件、ミュージアム会員 143 件、フリーパス 97 件、
キャンパスメンバーズ 7 校 2 学部

②「友の会ニュース」の発行（No.273～No.278）　　別紙 9 参照
No.273（5 月 1 日発行）、No.274（7 月 1 日発行）、No.275（9 月 1 日発行）、
No.276（11 月 1 日発行）、No.277（1 月 1 日発行）、No.278（3 月 1 日発行）
③「キャンパスメンバーズ」の運営及び増強
④ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』作成支援業務を受託し実施した。　　別紙 10 参照
⑤ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』デザイン業務を受託し実施した。
⑥ 2023 年国立民族学博物館オリジナルカレンダー「海のくらしアート」（企画展関連）の制作及び広報普及活動をおこなった。　　別紙 11 参照
⑦ 国立民族学博物館外部広報事業「阪急生活楽校」との連携講演会の開催
※新型コロナウィルス感染症拡大の影響により休止

2022 年度友の会増強への取り組み

・期限切れの会員への特別展開催及び刊行物の案内とともに再登録を案内した。
・「友の会 LINE」を開設し、イベント情報等の発信をスタートした（9 月 1 日より）。
※スタート時に登録を促すプレゼント企画も実施した。
・「国立民族学博物館友の会」の維持会員及び正会員の会費に対する税制優遇措置を周知した。
・博物館を活用する会員：フリーパスからミュージアム会員への移行の優遇制度を周知した。
みんぱくフリーパスからミュージアム会員への移行を促すため、登録日より 3 か月内に限り、会費の差額（2,000 円）でミュージアム会員に移行できる制度（2021 年 10 月よりスタート）
・博物館活動を支援する会員（「維持会員」・「正会員」）への税制優遇の周知、維持会員へのサイトのバナー広告の提供等、新たなサービスの普及に努めた。
・維持会員及び正会員を対象にしていた友の会講演会の聴講（無料）と民博主催イベントの会員先行予約枠の利用について、ミュージアム会員とみんぱくフリーパスも対象に追加し、会員制度の利用及び継続を促した。
・創設当初（発足から 4 ヶ年）よりご継続の会員へオリジナルカレンダーの送付（約 300 件）

4) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業（受託事業）
① 展示案内学習支援等業務を受託し実施した。
展示資料に関する情報提供・案内・学習支援、各展示場の施設・設備の案内、看視業務をおこない、来館者への研究成果の情報提供を有効におこなう業務
※臨時休館期間は、研修及び資料整理等の業務を受託し振り分けて実施した。
② 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施した。
標本資料及び映像・音響資料に関する情報の作成及び資料の整理等をおこなうとともに、情報サービス、展示準備・展示運営のための資料管理及び情報の作成・管理等をおこなう業務
③ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施した。
国立民族学博物館の民族学資料（標本資料、文献図書資料、オリジナル映像・音響資料及び研究アーカイブズ資料）について館内外からの問い合わせに対応する窓口業務
④ シャトルバス利用者の誘導・看視及び案内等業務を受託し実施した。
⑤ 関連催し物の開催支援各種業務
JICA「博物館学コース」研修受入事業（担当科目）「ミュージアム・ショップマネジメント、商品開発」講義指導を受託し実施
令和 4 年度国立民族学博物館「博物館とコミュニティ開発コース」研修員受入事業
研修実施日：11 月 18 日（火）13：30～14：55
来日できなかった研修員へは、オンデマンド配信にて受講

5)その他、国立民族学博物館活動に協力する各種事業
① 国立民族学博物館特別展及び企画展に対する協力として各種広報活動を実施した。
特別展「邂逅する写真たち ― モンゴルの 100 年前と今」（3 月 17 日～5 月 31 日）、特別展「『しゃべるヒト』 ― ことばの不思議を科学する」（9 月 1 日～11 月 23 日）、特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」（2023 年 3 月 9 日～5 月 30 日）、企画展等各種催しの広報活動をおこなった。
② 国立民族学博物館館外催しへの協力事業

3. 博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援

1）博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査をおこなった。

① 「世界の文化で遊んで学ぼう！出前授業プログラム」の企画・実施　　別紙12参照

新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見合わせていたが、プログラムの見直しをおこない再開した。本年度は、公益財団法人大阪コミュニティ財団の助成金申請をおこない採択され、助成金を利用して出前授業プログラムのパッケージ化をおこない、授業活用案の作成、配布・提示資料の作成、実物資料及びワークショップで使用する物品を整えた。限られた時間で対応できる出前授業のパッケージにより、参加者は講座料と材料費の負担のみで参加できるようにした。

・出前授業の実施

小学生対象に3箇所、中学生対象に1箇所、合計4箇所（南丹市・吹田市・天理市・京都市）にて実施　合計参加人数：80名

・主催ワークショップの主催

2 箇所（七尾市・吹田市）にて計 4 回実施　合計参加人数：59 名

② 各地の博物館等の施設を活用する巡回展等の実施（主催）　　別紙 13 参照

・高知県立歴史民俗資料館特別展「驚異と怪異　世界の幻獣と霊獣たち」

会期：4 月 29 日～6 月 26 日（59 日間）

会場：高知県立歴史民俗資料館（高知県南国市）　　入場者数：12,665 人

・石川県七尾美術館特別展　国立民族学博物館コレクション「ビーズ－つなぐ・かざる・みせる」

会期：7 月 30 日～9 月 11 日（44 日間）

会場：石川県七尾美術館（石川県七尾市）　　入場者数：3,874 名

・渋谷区立松濤美術館特別展「ビーズ　つなぐ　かざる　みせる　国立民族学博物館コレクション」

会期：11 月 15 日（火）～2023 年 1 月 15 日（日）（62 日間）

会場：渋谷区立松濤美術館（東京都渋谷区）　　入場者数：9,455 名

2）博物館運営や展示のあり方に関する調査研究

指定管理者制度における博物館運営に関する調査、巡回展のための什器に関する調査、博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査をおこなった。

3）各地の博物館展示案内等の編集業務

① 日本生命財団の出版助成への編集協力（受託事業）

地域文化の振興・青少年の文化教育に資するため、全国各地の博物館の協力をえて各博物館の展示案内を出版する事業　　別紙 14 参照

・北海道博物館展示案内『北東アジアの十字路』（2023 年 3 月 1 日発行）

・徳島県立博物館展示案内（2024 年 2 月発行予定）

4. 地域活性化、文化振興協力事業

多様な文化の振興をめざし、各種文化活動に協力した。

1) 日本万国博覧会記念公園関連施設との連携事業
2025 年大阪・関西万博に向けたシンポジウムの開催　　別紙 15 参照
2025 年大阪・関西万博の開催に向けた機運醸成及び地域活性化のため、2021 年度から万博開催年まで、1970 年大阪万博が生み出した 2 大レガシーである万博記念公園と国立民族学博物館が協働しておこなう毎年開催するシンポジウム。

第 2 回目にあたる 2022 年度は、国立民族学博物館特別研究「コロナ禍に対するローカルな対処としての『文化の免疫系』」に関する比較研究関連事業として、民博主催、千里文化財団共催にて、10 月 29 日（土）に、みんぱくインテリジェントホール（講堂）にて、日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2022「人類よ、どこへ行く？ポストコロナの世界を占う―Quo vadis, homini?」と題して実施

2) 第 31 回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務（松下幸之助記念志財団からの受託事業）
5 月 17 日（火）：第 1 回選考委員会（千里阪急ホテル）
6 月中旬：推薦依頼
9 月上旬：推薦の集約
9 月 26 日（月）：第 2 回選考委員会（オンライン）
10 月 10 日（月・祝）：第 3 回選考委員会（リーガロイヤルホテル大阪）
12 月中旬：選考結果の案内送付
2023 年 2 月 4 日（土）：授賞式（リーガロイヤルホテル大阪）

3) 各種学会支援業務
①「日本展示学会」の事務局業務（学会からの受託事業）
② 文化財保存修復学会事業開催準備及び運営業務（学会からの受託事業）
・第44回学会大会事業開催準備及び運営業務
開催日：6 月 17 日（金）～19 日（日）
開催地：熊本県立劇場
・シンポジウム開催準備及び当日運営業務
公開シンポジウム「変動する地球環境と文化財の保存」
開催日：2023年1月22日（日）
開催地：国立民族学博物館 2 階みんぱくインテリジェントホール（講堂）

4) 同人雑誌『千里眼』の編集を受託し、第 158 号～第 161 号の 4 号を発行した。　　別紙 16 参照
・2023 年 3 月 1 日時点の同人数 40 名
・世話人堀井良殷氏の依頼で、寄稿を抜粋し『民の公共―志ある時代の記憶』を制作(6 月 30 日発行)

5) 長野県との「信州の山岳文化創生事業」の推進に関する包括連携協定に基づく協力
※新型コロナウィルス感染症拡大の影響により講演会等は休止

「梅棹忠夫アーカイブズ資料の整理及びそれに基づく基礎データの整備並びに支援業務」事業報告

【概要】

2022 年度も新型コロナウイルス感染症の影響による制限はあったが、業務は滞りなくおこなった。原資料などの整備は、梅棹が関わった事業の「一件ファイル」や、主に学術調査資料の「現地調査ファイルほか」、及び著作物などの整理や点検（内容確認、資料補填、排架ほか）をおこなった。基礎データ整備は、各種資料のリスト、資料目録、デジタル化（画像データ作成など）をおこない、「梅棹忠夫デジタルアーカイブズ」の充実に努めた。支援業務は、国立民族学博物館創設 50 周年事業（映像記録、年史関連など）への協力ほか、館内外合わせて 100 件を超える支援や協力（閲覧、資料利用、研究支援や協力、出版、見学、相談ほか）をおこなった。

業務の具体的な内容は以下のとおり。

【整理及び基礎データ整備（デジタル化、データベース構築準備）】

●「一件ファイル」（梅棹が関与した著作、事業、組織、個人などの一件資料をファイルにしたもの約 1 万件）は、約 1,600 件の点検、資料補填等の整理を進めた。

●「現地調査ファイルほか」は、「日本動物学会 1947～」、「兵役 1943」、「民族学協会関西支部 1951～」、「第 1 次京都大学ヨーロッパ学術調査隊（1967）」の原資料の点検、整理とデジタル化を進めた。

●「引紹批言録 1940 年～」（梅棹著作の引用、紹介、批評、言及の記事の集積）の整備は、データベース構築と Web 公開の準備をおこなった（資料収集と整理、記事レコード作成、公開用リストの内容確認等）。

● 音や映像の資料は、梅棹忠夫の音声テープの整理（資料確認、リスト作成）をおこなった。

● 写真資料の整備

・データベース「梅棹忠夫写真コレクション（全 35,481 件）」（館内限定公開）の「注記」などの情報点検（梅棹の記述と照合して、加筆や修正）をおこなった。

・梅棹撮影の「1978 年中東」（中東文化ミッション）のデジタルデータ作成などを進めた。

● 書籍の整理は、梅棹アーカイブズとして管理する資料を整備（リスト作成、排架）するとともに、図書室蔵書として適切な書籍や逐次刊行物は寄贈した。

● みんぱくホームページでの公開

・公開中の DB『梅棹忠夫著作目録（1934～）』は、資料整理、補填等の整備をして、レコードの新規登録、更新をおこなった。

・梅棹アーカイブズ「カバーページ」、「利用成果物一覧」を更新した。利用成果物は全 235 件となった。

【支援や協力等】

●研究などの支援業務：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日　以下に一部記載
・令和 4（2022）年みんぱく新任職員等研修（事務系）への協力（オンラインでの概要説明と資料紹介）。
・奈良県平野村総合調査（1947,1951）資料のテキスト化の支援。
・問い合わせ、閲覧等に対応した書籍の出版協力。
・名誉教授等、みんぱく関係者などへの連絡に協力。
・梅棹に関する情報提供（書籍、記事等の寄贈）に対応。

●展示などへの協力
海外移住資料館（JICA 横浜）リニューアルに伴う協力をおこなった。（常設展示室基本テーマ「われら新世界に参加す」（梅棹提唱）の補足説明作成にあたり、該当文章と写真の案内や確認等）。

●創設 50 周年関連への協力
・みんぱく創設準備室まで、創設準備室、創設直後などの資料の内容を点検、整理、整備（リスト作成、保管）、及び閲覧や問い合わせに対応。
・創設 50 周年記念映像記録制作への協力。
・ 過去に開催した映画会等のチラシ収集、『十年史』、『三十年史』リポジトリ掲載ほかへの協力。
・場所が未確定の館資料の保管等。

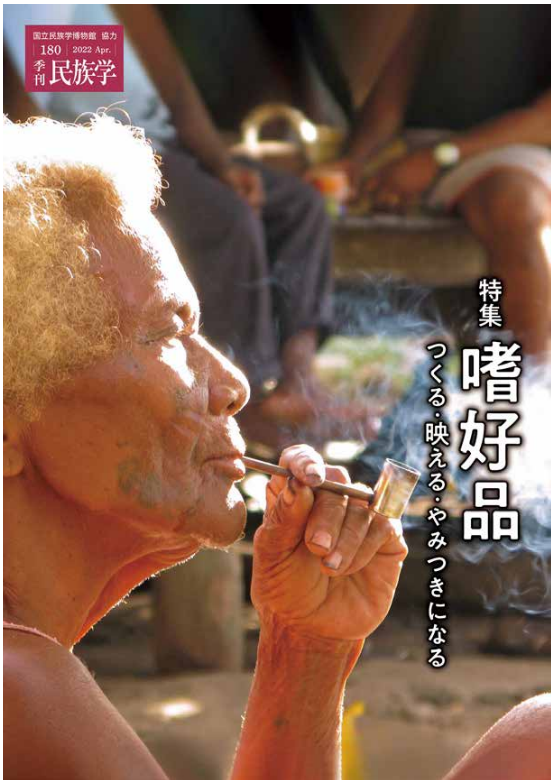
●学習キットみんぱっく「あるく、ウメサオタダオ展」利用協力
大人向けに、特に大学生への利用について、広報に努めた。

●室ミーティングの開催（業務報告、課題解決等）
業務の状況、室運営に関わる提案、課題の解決のため、室長と室関係教員、室員とのミーティングを 11 回開き、業務内容の方向性を考えるとともに、問題解決に取りくみ、「記録」した。

●室の事務業務と環境整備
全般的な事務業務、COVID-19 への感染防止対応、什器類整備等をおこなった。

●著作権継承者（梅棹淳子氏）への対応
著作利用の確認、みんぱくの出版物等の送付、梅棹家所蔵写真の利用ほか、事務連絡等。

180 号（2022 年 4 月 30 日発行）



180 | 2022 Apr. | 国立民族学博物館 協力
季刊 民族学

［目次］

003 |特集|
嗜好品
──つくる・映える・やみつきになる

004 嗜好品研究からみえるもの
大坪 玲子

008 香港のおいしいミルクティー
──どこにでもありそうで
ここにしかない飲みもの
小栗 宏太

016 世界的な飲みものと
なることを夢見て
──ペルーのチチャ・デ・ホラ
藤田 周

019 大都会東京に映える水煙草
──中東で開花した
嗜好品の脱領域化
澤井 充生

027 映える刺激
──日本のエナジードリンク
金子 修也

030 エナジードリンクというジレンマ
──インドネシアにおける
医薬品と食品のはざま
阿由葉 大生

033 粽が好きな人びと
川瀬 由高

040 檳榔と煙草とパンパイプ
──ソロモン諸島アレアレの村で
「胸が打つ」・「胸を打つ」ということ
佐本 英規

048 やみつきになる発酵食品
──カンボジア北東部における
パデークをめぐって
山崎 寿美子

056 ラオスの大麻入りチキンスープのゆくえ
難波 美芸

059 タイ王国にみる覚醒剤と少数民族
二文字屋 脩

062 モノから見た宗教の世界 第8回
中国黄土高原の
「自然」と剪紙の造形
丹羽 朋子

070 日本万国博覧会記念公園シンポジウム2021
人類・いのち・万博
──1970から2025に向けて
西尾 章治郎／ウスビ・サコ／山極 壽一／
井上 章一／吉田 憲司／中牧 弘允

103 索引

表紙 陽光を浴びながらパイプで一服する女性
写真・文＝佐本 英規

写真提供・協力
Shutterstock、Victor Fraile/Corbis via Getty Images、小栗成子、Wikimedia Commons、Francesco D'Angelo、セントラール、Wellcome Collection、Freepik、サントリーホールディングス株式会社、Rusty Blazenhoff/Flickr、馮鳶、大阪府、万博記念公園 マネジメント・パートナーズ、PIXTA、大阪大学、Handout/Getty Images、安藤智恵子、Wikipedia、2025年日本国際博覧会協会

本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。

181 号（2022 年 7 月 31 日発行）

181 | 2022 Jul. | 国立民族学博物館 協力
季刊 民族学

［目次］

003 |特集|
沖縄
──今に生きる記憶

004 フェンスの向こうの故郷
──基地内の聖地を
遥拝する人びと
山内 健治

016 船乗りの島に祖先を尋ねて
藤本 透子

024 豚とともに生きる
──戦後沖縄の
豚肉食文化の再生
比嘉 理麻

034 現代沖縄のユタ
──ユタの境界を生きる
人びとへのまなざし
平井 芽阿里

042 踊るエイサーから
魅せるエイサーへ
久万田 晋

052 沖縄壺屋1938～40年
──民藝と作家と工人
松井 健

060 琉球紅型
──琉球王国の美・沖縄の象徴
児玉 絵里子

072 複数の沖縄、ひとつの沖縄
岸 政彦

084 モノから見た宗教の世界 第9回
ギニアのスス社会から学ぶ
信仰の豊かさと
あたらしさ
中川 千草

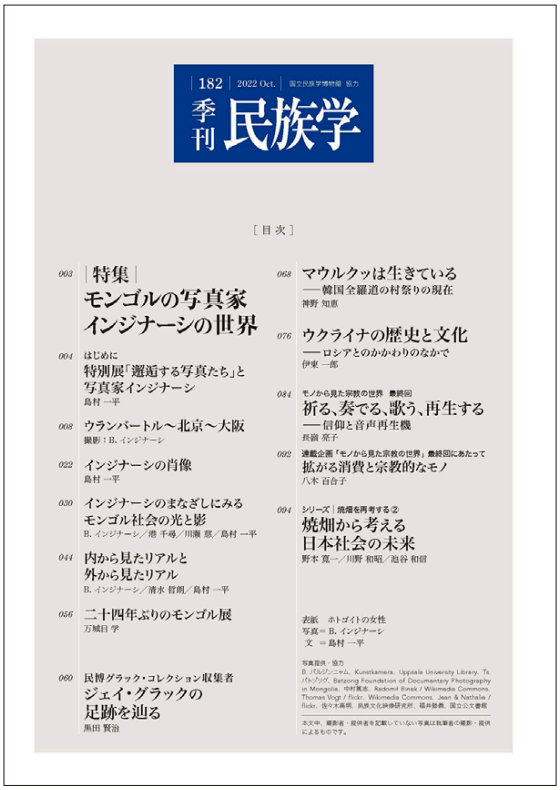
092 シリーズ｜焼畑を再考する①
新たな
焼畑像を探る
──佐々木高明の研究を超えて
池谷 和信／米家 泰作／佐藤 廉也

表紙 沖縄の夏の風物詩、エイサー
写真＝沖縄全島エイサーまつり実行委員会

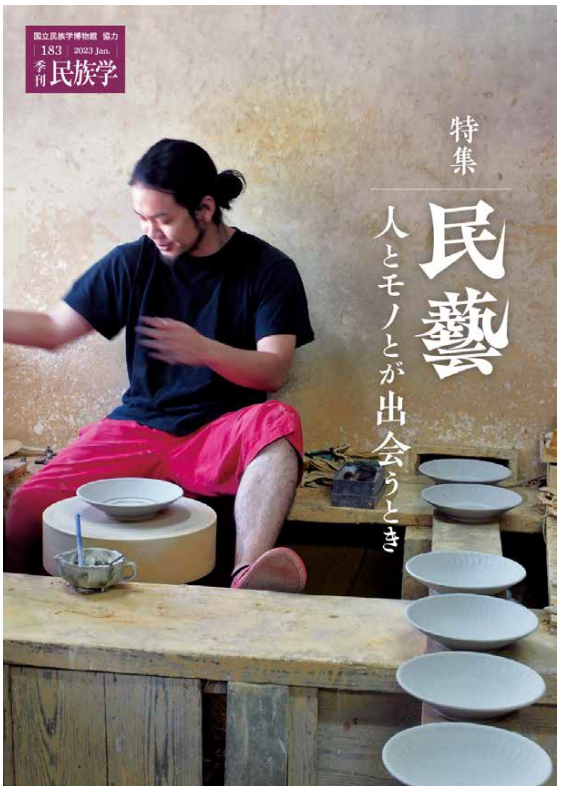
写真提供・協力
沖縄全島エイサーまつり実行委員会、Adobe Stock、沖縄県立図書館貴重資料デジタル書庫、沖縄県公文書館、島袋幸司、沖縄県青年団協議会、那覇市立壺屋焼物博物館、新垣製陶所、久高民藝店、月森俊文、アフロ、R.TSUNO、金城優、金城司、沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館、真境名由佳子、広島県立美術館、那覇市歴史博物館、玉那覇紅型工房、日本工芸会、神田佳明、横浜能楽堂、内山寛、バー由美子、大林龍矢、江頭宏昌、高木仁、鈴木紀、国立国会図書館デジタルコレクション

本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。

182 号（2022 年 10 月 31 日発行）



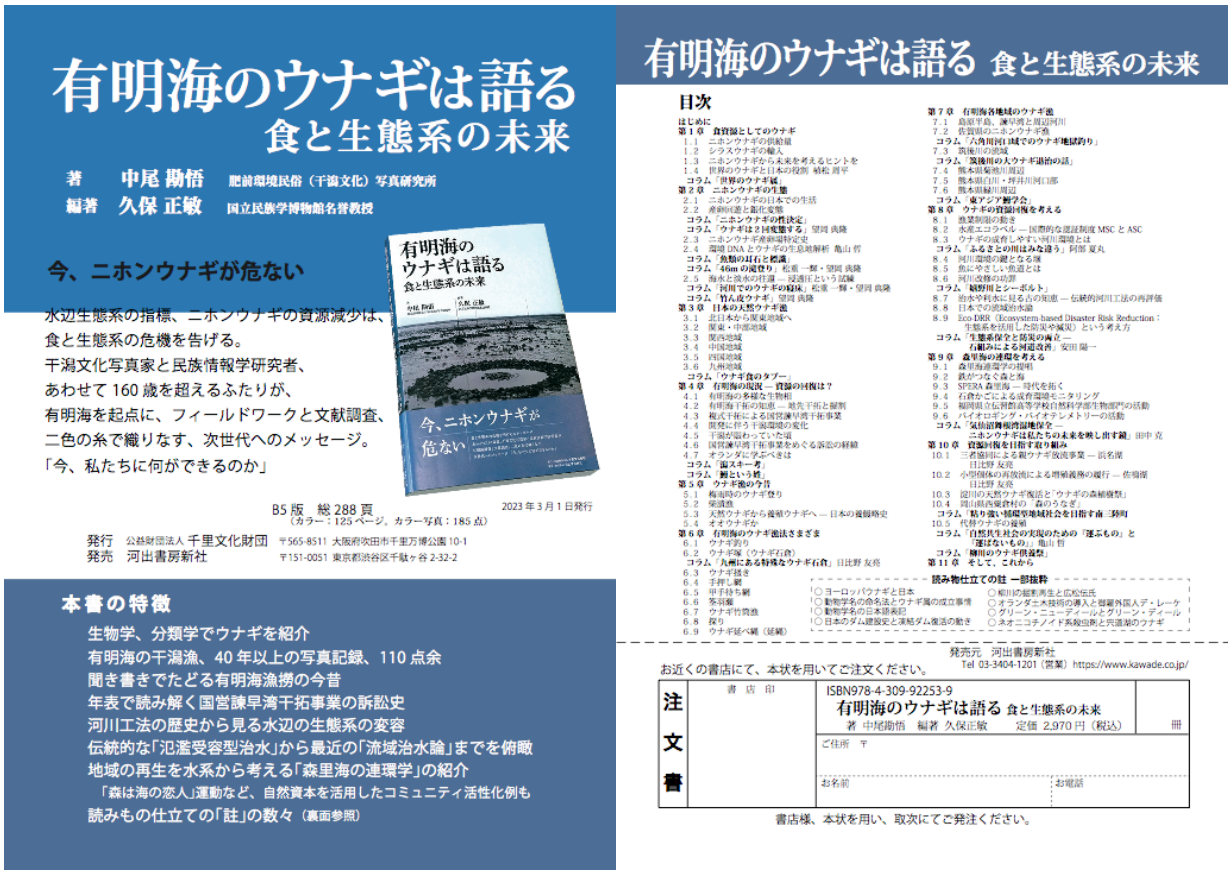
183 号（2023 年 1 月 31 日発行）



書籍『有明海のウナギは語る――食と生態系の未来』

『季刊民族学』163 号及び 166 号で掲載された「有明海周辺のウナギ漁」をテーマに、ニホンウナギ漁の調査や漁労文化の記録写真を通して、環境や人類社会の変化、生態系との関わりを浮き彫りにし、食資源と食文化の持続可能性を考えるヒントを探る。

2023 年 3 月 1 日発行
B5 判　288 頁（カラー125 頁）
本体価格：2,700 円（※ 河出書房新社に書籍流通に関する発売元を委託）



広報実績：

神戸新聞（2023 年 4 月 8 日）
京都新聞（2023 年 4 月 8 日）
佐賀新聞（2023 年 4 月 13 日）
長崎新聞（2023 年 4 月 22 日）
毎日新聞（2023 年 4 月 24 日）
朝日新聞佐賀版（2023 年 5 月 22 日）
雑誌「グローバルネット 2023 年 4 月号」

「国立民族学博物館友の会」講演会等開催内容

1）国立民族学博物館友の会講演会

新型コロナウィルス感染症拡大の影響下、館の活動基準に則り、運営方法等を調整することで開催

大阪【会場：国立民族学博物館】開催日時：毎月第 1 土曜日、13：30～15：00

※ オンライン中継は会員に限定して実施。講演会終了後の懇談会は中止。

・第 523 回　4 月 2 日　会場：みんぱくインテリジェントホール（講堂）※オンライン中継あり

【特別展「邂逅する写真たち ― モンゴルの 100 年前と今」関連】

「モンゴルとＳＤＧｓ」

話者：山極壽一（総合地球環境学研究所所長）、

小長谷有紀（日本学術振興会監事、民博特別客員教授）

参加人数：会場 85 名（会員 32 名、一般 53 名）、オンライン 54 名

持続可能でよりよい世界を目指す国際指標ＳＤＧｓ。17 の目標の達成には環境問題の解決が大きく影響する。地球規模の環境問題は解決に向かっているのか。総合地球環境学研究所の取り組みとともに、モンゴルを例に考えた。

・第 524 回　5 月 7 日　会場：第 5 セミナー室

【企画展「焼畑 ― 佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」関連】

「佐々木高明を語る ― 研究とその人物像」

話者：ヨーゼフ・クライナー（ボン大学名誉教授）、

宇野文男（元福井大学教授）池谷和信（民博教授）

参加人数：48 名

民博第 2 代館長を務めた佐々木高明は焼畑研究の第一人者、照葉樹林文化論の提唱者のひとりとして知られている。生前の佐々木とゆかりの深い 3 名（研究・博物館活動にて関与）による対談をとおして、佐々木高明の人となりに迫った。

※宇野文男氏はオンライン参加。　※『季刊民族学』183 号に対談の模様を掲載。

・第 525 回　6 月 4 日　会場：第 5 セミナー室　※オンライン中継あり

「コサックの国で生まれたユダヤ人の大統領？ ― ウクライナとロシアにおける民族問題の諸相」

講師：赤尾光春（大阪大学非常勤講師）

参加人数：会場 43 名（会員 15 名、一般 28 名）、オンライン 50 名

2014 年のユーロ・マイダン革命とともに民族主義が台頭したウクライナでは、今、ユダヤ系の大統領がロシアとの戦いで指揮をとっている。ウクライナとロシア、そしてユダヤ人との歴史的な関係を紐解き、複雑な民族問題の諸相について理解を深めた。

・第 526 回　7 月 2 日　会場：第 5 セミナー室　※オンライン中継あり

「アボリジニの『酒狩り』」　講師：平野智佳子（民博助教）

参加人数：会場 21 名（会員 16 名、一般 5 名）、オンライン 64 名

娯楽である一方でトラブルの種にもなる酒。アボリジニ社会では酒が好まれる一方で、「酒は毒」という語りもきかれる。こうした状況下で人びとはどのように酒を調達しているのか。アボリジニ社会と酒とのかかわり方について理解を深めた。

・第 527 回　8 月 6 日　会場：第 5 セミナー室　※オンライン中継あり

「探検、博物学、強制収容 ― 朝枝利男とアメリカ」　講師：丹羽典生（民博教授）

参加人数：会場 10 名、オンライン 41 名

日系アメリカ人収容から 80 年がたつ。探検家・朝枝利男も収容経験をもつひとりであった。民博のフォーラム型情報ミュージアムプロジェクトの成果のひとつでもある朝枝利男コレクションをとおして、彼自身のアメリカでの体験を紹介した。

・第 528 回　9 月 3 日　会場：第 5 セミナー室　※オンライン中継あり

【特別展「『しゃべるヒト』 ― ことばの不思議を科学する」関連】「伝わらないことば」

講師：吉岡乾（民博准教授）

参加人数：会場 33 名（会員 15 名、一般 18 名）、オンライン 43 名

意思伝達に用いられるヒト特有の道具「言語」。言語の特性のひとつに、無限の表現を作り出し、理解もできる「創造性」がある。一方で、世の中には伝わらないことばがあるのはなぜなのか。言語の特性とともにその理由を考えた。

・第 529 回　10 月 1 日　会場：第 5 セミナー室　※オンライン中継あり
「ポップカルチャーからみるインドネシア社会」　講師：金悠進（民博機関研究員）
参加人数：会場 16 名（会員 14 名、一般 2 名）、オンライン 34 名
インドネシアの伝統芸能といえば、ガムランやワヤンを思い浮かべるかもしれないが、同国では現代的なポップカルチャーも人気である。その背景を、インドネシアの歴史、政治、社会から紐解いた。

・第 530 回　11 月 5 日　会場：第 5 セミナー室　※オンライン中継あり
【企画展「海のくらしアート展」関連】「カヌーとくらし ― 海に生きるオセアニアの人びと」
講師：須藤健一（堺市博物館館長、民博名誉教授）
参加人数：会場 33 名（会員 24 名、一般 9 名）、オンライン 33 名
新天地を求めて、大海原へとダブルカヌーで繰り出したオセアニアの人びと。今でも島々の往来や魚とりには、カヌーが必需品である。海を生活の場としてきた、島人の生き方について理解を深めた。

・第 531 回　12 月 3 日　会場：第 5 セミナー室　※オンライン中継あり
「分断された商世界をつなぐ『ローカル・インフルエンサー』 ― タンザニアにおける商人のソーシャルメディアの利用とビジネスの未来」
講師：小川さやか（立命館大学教授）
参加人数：会場 22 名（会員 19 名、一般 3 名）、オンライン 33 名
タンザニアでは、インスタグラムなどのＳＮＳを利用した商売が活性化している。ＳＮＳを通じて、商人たちが客筋やフォロワーといった「自身の系譜」をどのように構築していくかを紹介し、ＳＮＳの利用の可能性とともにビジネスの未来を考えた。

・第 532 回　2023 年 1 月 7 日　会場：第 5 セミナー室
「フランスのモン農民と考える『自由』」
講師：中川理（民博准教授）
参加人数：会場 26 名
ラオスから難民としてフランスへと渡ったモンの農民。彼らの生き方を通して「自由」という概念をとらえ直した。

・第 533 回　2023 年 2 月 4 日　会場：第 5 セミナー室　※オンライン中継あり
「モンゴル遊牧民の“ルームツアー” ― モノの配置にみる生存戦略」
講師：堀田あゆみ（大阪国際大学非常勤講師）
参加人数：会場 26 名（会員 22 名、一般 4 名）、オンライン 39 名
「必要最小限のモノ」で暮らしていると語られがちなモンゴル遊牧民。その実態は「何がいくつあるか」ではなく「何がどうあるか」である。遊牧民の移動式住居「ゲル」をとおして、その実態と生活のための戦略について理解を深めた。

・第 534 回　2023 年 3 月 4 日　会場：第 5 セミナー室　※オンライン中継あり
「中国における宗教と風紀 ― 回族によるアルコール排斥運動の展開」
講師：奈良雅史（民博准教授）
参加人数：会場 18 名（会員 12 名、一般 6 名）、オンライン 34 名
宗教活動が政府の管理統制下にある中国。イスラーム系少数民族の回族は、政府の社会政策を部分的に取り入れながら、宗教活動を展開してきた。回族のアルコール排斥運動をとおして、中国におけるイスラーム的な風紀の在り方を考えた。

東京【会場：東京他】開催日時：不定期

・第 130 回　10 月 23 日（日）13：30～15：00
会場：モンベル御徒町店（東京都台東区）
【企画展「海のくらしアート展」関連】
「島世界に進出したサピエンスと海のあるくらし」
講師：藤田祐樹（国立科学博物館研究主幹）、
小野林太郎（民博准教授）
参加人数：46 名（会員 39 名、モンベルクラブ会員 3 名、
一般 4 名）　共催：株式会社モンベル
島世界へと移住したサピエンスの海洋適応の人類史について、
東南アジアやオセアニア、琉球の事例から理解を深めた。

・第 131 回　2023 年 1 月 28 日（土）13：30～15：00　会場：JICA 地球ひろば（東京都新宿区）
「古代エジプト文明の新たな研究拠点 ― 大エジプト博物館への日本の支援」
講師：末森薫（民博准教授）
参加人数：40 名（会員 28 名、一般 12 名）　後援：JICA 地球ひろば
古代エジプト文明の新たな研究拠点「大エジプト博物館」が建設中である。世界最大規模のこの博物館の建設にあたり、日本は資金援助だけでなく、人材育成や技術支援を進めてきた。その経緯や成果について紹介した。

・第 132 回　2023 年 2 月 26 日（日）13：30～15：00　会場：モンベル御徒町店（東京都台東区）
「ペルーの民芸品制作と職人たちのいま」
講師：八木百合子（民博准教授）
参加人数：30 名（会員 27 名、一般 3 名）　共催：株式会社モンベル
地方色豊かなペルーの民芸品制作は、時代の流れのなかで作風や技法が変わるだけでなく、社会的な意味や位置づけも大きく変化してきた。ペルーの民芸品制作の歴史とその制作に携わる現代の職人たちの取り組みについて理解を深めた。

2）体験セミナー

・第 84 回「旅する獅子 ― 伊勢大神楽総舞見学」
現地訪問日：12 月 24 日（土）訪問先：三重県桑名市
講師：神野知恵（人間文化研究機構人文知コミュニケーター、民博特任助教）
参加人数：20 名（正会員 17 名、体験会員 3 名）
伊勢大神楽をテーマとするみんぱくの映像番組が公開されたことを踏まえ体験セミナーを開催した。年間をとおして、各地を巡行する伊勢大神楽には、五つの社中が存在する。一年に一度全社中が参集し、三重県桑名市の増田神社で奉納される総舞を見学するとともに、伊勢大神楽の歴史的な背景や技術の継承について理解を深めた。
※みんぱくの映像視聴（民博が提供するストリーミング配信機能を利用）、同行講師によりレクチャーを、現地訪問の前に段階的に開催した。

3）みんぱく見学会（年度末より再開）
・第 81 回　中央・北アジア展示場（ゲル）
2023 年 2 月 4 日（土）
講師：堀田あゆみ（大阪国際大学非常勤講師）
参加人数：会員 25 名

4）オンラインレクチャー
オンラインでの公開を目的としたプログラム　※視聴回数は 2023 年 5 月 6 日時点。
・第 6 回　特別展「『しゃべるヒト』 ― ことばの不思議を科学する」みどころインタビュー！！
9 月 22 日（金）公開　視聴回数：502 回　話者：菊澤律子（民博教授）
特別展の開幕にあわせ「友の会ニュース」にインタビュー記事を掲載するとともに、掲載できなかった情報を全編とおして公開すべく記録映像を公開した。映像は特別展示場でも関連資料として公開された。

5）理事長サロン
中牧理事長主宰による、会員との交流、会員同士が交流するための機会として開催。
・オンラインサロン　11 月 12 日（土）開催　参加人数：12 名

6）みんぱく友の会オンライン新年会
会員との交流、会員同士が交流するための機会として開催。
・第 2 回 2023 年 1 月 5 日（木）開催　参加人数：6 名

7）新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、以下の事業は中止となった。
「民族学研修の旅」、「阪急生活楽校 講演会」

国立民族学博物館 企画展関連書籍
『図説　焼畑の民　――　五木村と世界をつなぐ』

九州山地の五木村の事例から、世界や日本の焼畑の民の暮らしや自然のかかわりをとおして現代文明のあり方を考える。※2022 年に国立民族学博物館で開催された企画展示「焼畑―佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」の資料をもとに製作した。

2023 年 3 月 31 日発行
B5 判　48 頁（オールカラー）
本体価格：800 円

図説 焼畑の民
五木村と世界をつなぐ

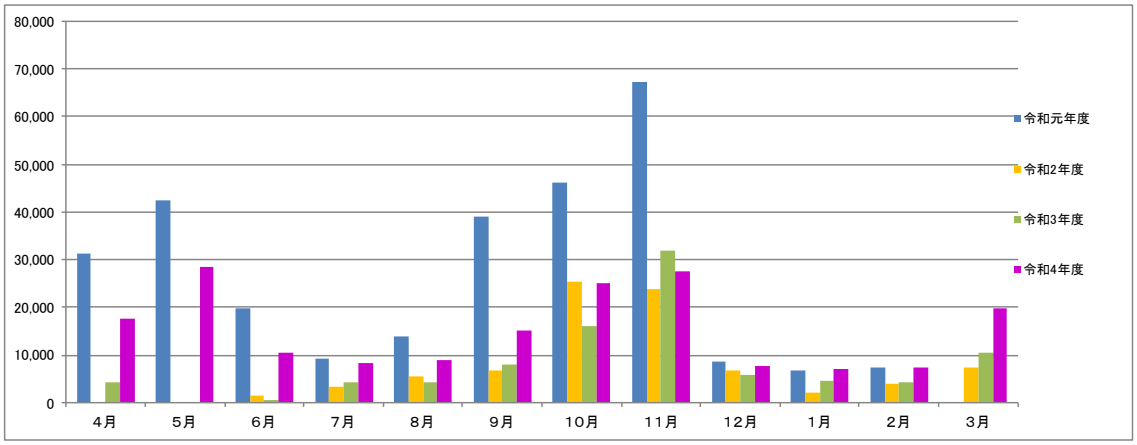
目次

はじめに …… 表紙そで
焼畑の民とは？ …… 2
生業複合 4／森と人 5
終焉にむかう焼畑の村の記録 …… 6
くらし 7／焼畑 8／作物 10
コラム 佐々木高明と五木村 9
受け継がれる焼畑の文化 …… 12
焼畑の伝統を残す家 12／コラム 焼畑の記憶とともに生きる 15
木おろし竿 16／コラム 木おろし竿を使った最後の人 16
つくり続ける作物 17
焼畑耕作の道具 18／コラム 焼畑から造林へ 18
狩猟と採集 22／養蜂と漁撈 23
雑穀と儀礼 24／焼畑と山の神 25
村の歩みと焼畑 …… 26
縄文から弥生へ 26／山の弥生人 27
中世から近世へ 28／コラム 山茶の流通 29
九州山地の木おろし文化 30／コラム 木製の木おろし竿 30
焼畑の村と神楽 31／近代の変容 32
五木村から世界へ …… 34
日本列島の焼畑 34
モンスーン・アジアの焼畑―ラオスを中心として 36
世界の焼畑 39
現代社会と焼畑 …… 42
焼畑の持続可能性 43
地産地消の物産品 44／学校教育と焼畑 45
日本列島の文化の多様性 46／コラム 太鼓踊りと久連子踊 47
参考文献 …… 48
おわりに …… 裏表紙そで

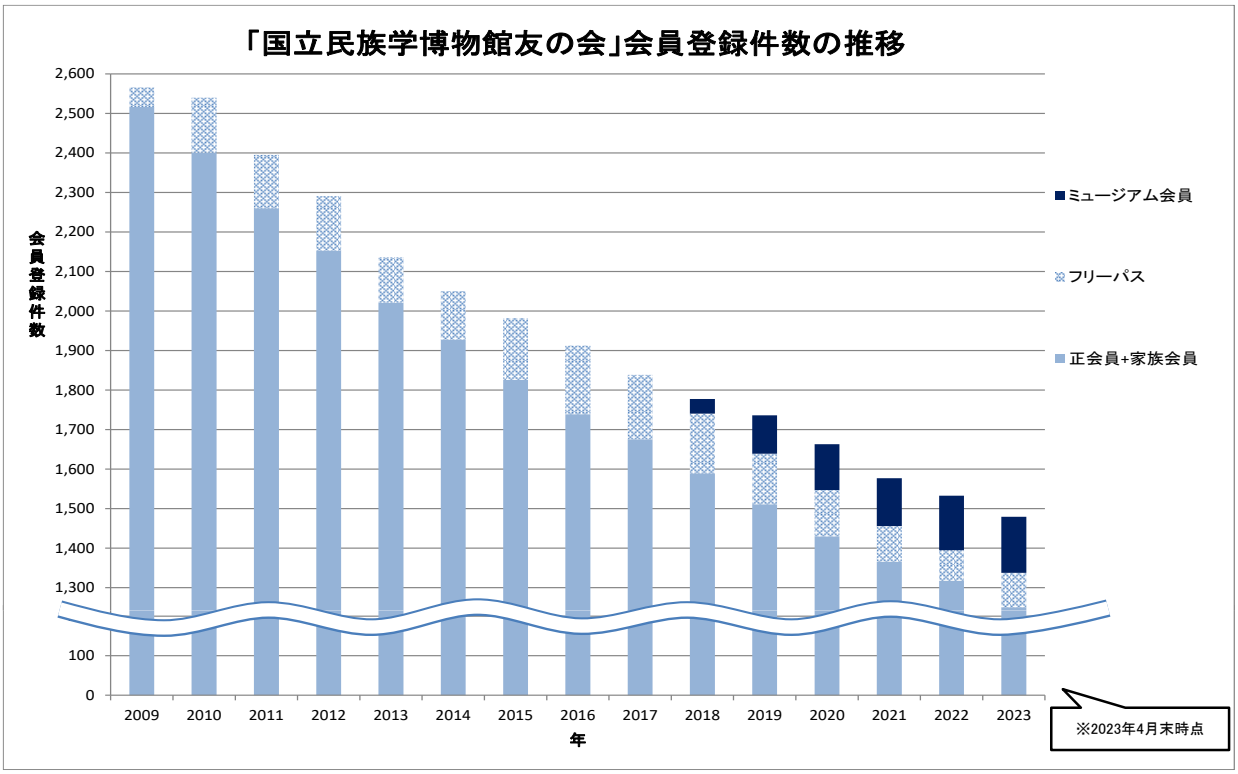
・解説文末の（ ）は執筆者を示す。（池谷）は池谷和信、（木野）は木野俊也、（寺嶋）は寺嶋悠、（川野）は川野和昭、（福原）は福原博信、（鈴木）は鈴木良幸。
・クレジットに X で始まる数字（資料管理番号）の記載がある写真は、国立民族学博物館蔵。

令和元年度－令和4年度 入館者数(総数)比較表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総　数	3月までの累計
令和元年度	31,245	42,404	19,929	9,224	13,947	38,986	46,314	67,226	8,710	6,816	7,514	0	**292,315**	292,315
令和2年度	0	0	1,451	3,436	5,607	6,906	25,532	23,885	6,761	2,034	4,055	7,409	**87,076**	87,076
令和3年度	4,169	0	666	4,184	4,286	8,017	16,087	31,900	5,815	4,615	4,262	10,437	**94,438**	94,438
令和4年度	17,578	28,631	10,632	8,179	8,787	15,283	24,920	27,530	7,783	7,103	7,498	19,886	**183,810**	183,810



総務課　広報・IR係



「国立民族学博物館友の会」会員登録件数の推移 （正会員、家族会員、ミュージアム会員、準会員、フリーパス）

年	会員種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均	増減数(件)	増減率(%)
2009	正＋家族＋準	2,457	2,559	2,591	2,430	2,547	2,536	2,551	2,578	2,595	2,538	2,469	2,344	2,516		
	フリーパス									26	43	60	70	50		
	合計	**2,457**	**2,559**	**2,591**	**2,430**	**2,547**	**2,536**	**2,551**	**2,578**	**2,621**	**2,581**	**2,529**	**2,414**	**2,533**		
2010	正＋家族＋準	2,513	2,455	2,472	2,317	2,379	2,404	2,394	2,406	2,417	2,365	2,386	2,298	2,401		
	フリーパス	80	88	109	129	151	164	174	176	173	151	146	136	140		
	合計	**2,593**	**2,543**	**2,581**	**2,446**	**2,530**	**2,568**	**2,568**	**2,582**	**2,590**	**2,516**	**2,532**	**2,434**	**2,540**	**7**	**0**
2011	正＋家族＋準	2,149	2,242	2,288	2,169	2,236	2,276	2,295	2,319	2,327	2,284	2,308	2,232	2,260		
	フリーパス	186	145	142	132	119	107	122	128	131	127	137	141	135		
	合計	**2,335**	**2,387**	**2,430**	**2,301**	**2,355**	**2,383**	**2,417**	**2,447**	**2,458**	**2,411**	**2,445**	**2,373**	**2,395**	**-145**	**-6**
2012	正＋家族＋準	2,128	2,214	2,223	2,073	2,149	2,172	2,156	2,181	2,165	2,140	2,162	2,072	2,153		
	フリーパス	144	148	152	143	152	146	136	132	132	132	114	124	138		
	合計	**2,272**	**2,362**	**2,375**	**2,216**	**2,301**	**2,318**	**2,292**	**2,313**	**2,297**	**2,272**	**2,276**	**2,196**	**2,291**	**-104**	**-4**
2013	正＋家族＋準	1,979	2,064	2,093	1,958	2,016	2,046	2,023	2,050	2,045	1,997	2,019	1,963	2,021		
	フリーパス	122	122	122	114	115	116	119	113	122	108	104	100	115		
	合計	**2,101**	**2,186**	**2,215**	**2,072**	**2,131**	**2,162**	**2,142**	**2,163**	**2,167**	**2,105**	**2,123**	**2,063**	**2,136**	**-155**	**-7**
2014	正＋家族＋準	1,885	1,935	1,954	1,861	1,905	1,950	1,951	1,959	1,958	1,932	1,951	1,893	1,928		
	フリーパス	105	95	99	101	105	123	133	130	134	141	151	157	123		
	合計	**1,990**	**2,030**	**2,053**	**1,962**	**2,010**	**2,073**	**2,084**	**2,089**	**2,092**	**2,073**	**2,102**	**2,050**	**2,051**	**-85**	**-4**
2015	正＋家族＋準	1,818	1,880	1,902	1,793	1,839	1,835	1,854	1,857	1,806	1,827	1,794	1,710	1,826		
	フリーパス	151	157	157	151	147	132	158	159	154	168	170	170	156		
	合計	**1,969**	**2,037**	**2,059**	**1,944**	**1,986**	**1,967**	**2,012**	**2,016**	**1,960**	**1,995**	**1,964**	**1,880**	**1,982**	**-68**	**-3**
2016	正＋家族＋準	1,772	1,796	1,688	1,728	1,750	1,745	1,775	1,776	1,743	1,750	1,703	1,641	1,739		
	フリーパス	174	179	169	175	180	178	176	173	164	171	172	175	174		
	合計	**1,946**	**1,975**	**1,857**	**1,903**	**1,930**	**1,923**	**1,951**	**1,949**	**1,907**	**1,921**	**1,875**	**1,816**	**1,913**	**-70**	**-4**
2017	正＋家族＋準	1,703	1,719	1,630	1,667	1,704	1,694	1,709	1,700	1,671	1,693	1,644	1,574	1,676		
	フリーパス	168	176	171	169	167	166	154	159	156	152	161	156	163		
	合計	**1,871**	**1,895**	**1,801**	**1,836**	**1,871**	**1,860**	**1,863**	**1,859**	**1,827**	**1,845**	**1,805**	**1,730**	**1,839**	**-74**	**-4**
2018	正＋家族＋準	1,624	1,641	1,554	1,589	1,616	1,616	1,622	1,616	1,583	1,590	1,540	1,481	1,589		
	フリーパス	159	153	160	159	150	148	143	131	166	146	146	152	151		
	ミュージアム			9	16	24	34	35	35	43	50	56	67	37		
	合計	**1,783**	**1,794**	**1,723**	**1,764**	**1,790**	**1,798**	**1,800**	**1,782**	**1,792**	**1,786**	**1,742**	**1,700**	**1,771**	**-67**	**-4**
2019	正＋家族	1,552	1,547	1,457	1,492	1,514	1,524	1,544	1,535	1,517	1,526	1,495	1,434	1,511		
	フリーパス	135	128	130	128	122	121	118	126	127	125	139	141	128		
	ミュージアム	75	79	84	91	96	99	100	97	101	104	114	125	97		
	合計	**1,762**	**1,754**	**1,671**	**1,711**	**1,732**	**1,744**	**1,762**	**1,758**	**1,745**	**1,755**	**1,748**	**1,700**	**1,737**	**-34**	**-2**
2020	正＋家族	1,494	1,496	1,419	1,429	1,441	1,438	1,447	1,434	1,409	1,424	1,393	1,334	1,430		
	フリーパス	134	137	122	105	104	104	108	114	122	131	114	112	117		
	ミュージアム	123	125	125	123	119	116	114	114	109	110	106	110	116		
	合計	**1,751**	**1,758**	**1,666**	**1,657**	**1,664**	**1,658**	**1,669**	**1,662**	**1,640**	**1,665**	**1,613**	**1,556**	**1,663**	**-74**	**-4**
2021	正＋家族	1,391	1,394	1,306	1,342	1,363	1,364	1,396	1,394	1,381	1,389	1,361	1,312	1,366		
	フリーパス	115	107	104	92	85	88	88	88	85	76	76	70	90		
	ミュージアム	110	114	116	123	123	123	123	126	118	120	124	137	121		
	合計	**1,616**	**1,615**	**1,526**	**1,557**	**1,571**	**1,575**	**1,607**	**1,608**	**1,584**	**1,585**	**1,561**	**1,519**	1,577	**-86**	**-5**
2022	正＋家族	1,367	1,377	1,361	1,316	1,325	1,327	1,333	1,324	1,294	1,283	1,228	1,280	1,318		
	フリーパス	56	61	63	72	77	79	78	77	79	89	95	96	77		
	ミュージアム	141	140	134	136	144	138	138	136	139	136	137	139	138		
	合計	**1,564**	**1,578**	**1,558**	**1,524**	**1,546**	**1,544**	**1,549**	**1,537**	**1,512**	**1,508**	**1,460**	**1,515**	1,533	**-44**	**-3**
2023	正＋家族	1,280	1,290	1,199	1,234									1,251		
	フリーパス	96	61	97	93									87		
	ミュージアム	139	140	143	145									142		
	合計	**1,515**	**1,491**	**1,439**	**1,472**									1,479	**-54**	**-4**

※フリーパス：2009年9月開始　　※準会員：2018年3月末終了　　※ミュージアム会員：2018年4月開始（友の会制度一部改定：正会員同伴者1名入館可）
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、2020年2月28日～6月17日臨時休館。維持会員と正会員は希望者に5か月の特別フリーパスを発行、フリーパス会員は有効期限を5か月延長。
※大阪府北部地震により、2018年6月18日～8月22日臨時休館。8月23日～9月12日一部再開。ミュージアム会員とフリーパス会員は有効期限を3か月延長。
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、2020年2月28日～6月17日臨時休館。
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、2021年4月25日～6月22日臨時休館。

273 号（2022 年 5 月 1 日発行）

国立民族学博物館
友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER
No.273 2022.5-6
「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。
発行日 2022 年 5 月 1 日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

実行委員長インタビュー 池谷 和信 先生

焼かなくても焼畑? 移動する畑の可能性

◆企画展「焼畑――佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」◆会期:2022年6月7日(火)まで

焼畑というと「焼」という字が入っているせいなのか、日本では火入れの印象が強いんですが、じつは火入れは重要な要素ではないんです。例えば、パプアニューギニアのバナナ農園やエチオピアのマジャンギルの人びとは「焼かない焼畑」を営んでいます。焼畑とは、樹木を伐採したあとに作物を育てて、その後、畑を放棄して土壌の回復を待ち、また耕地として使う循環型の資源利用のこと。大切なのは休耕と畑の移動なんです。

佐々木高明先生がはじめて焼畑調査をおこなった熊本県五木村ではひとつの畑を五年間利用した後に二〇年ほど休耕期間を設けていました。同じサイクルで畑を毎年ひとつずつ増やすんですが、個々の畑では年ごとに異なる雑穀や芋類を栽培します。海外では二年目から休耕する畑が多いので、利用期間の長さは五木村を含む九州山地の焼畑の特徴だといえるでしょう。水田稲作であれば休耕しないし、水の確保が前提なので場所が固定される。それは人びとが土地の所有権を主張するような社会性にもつながるんだけれど、焼畑はそれとは異なる価値観をもっています。「焼畑」を英語にする場合、複数の表現がありますが、世界的には「shifting cultivation（移動する畑）」が使われることが多いですね。火入れはあくまでも整地をするためのひとつの方法なんです。

火入れ自体は農耕が始まる以前からあったと思います。火入れをしたあとの森には山菜が育ち、それを求めて動物もやってくる。焼畑においても畑から森への移行の過程で採集や狩猟など多様な活動がおこなわれます。それにソバなど畑の作物が蜜源となり、養蜂がおこなわれるケースもあります。焼畑は土地の生産性を高めるとともに、資源の多様性を生み出すことのできる耕作なのです。

森林が国土の八割を占める日本においては、もはや「原生林」と呼べる場所はありません。どこも何らかのかたちで人の手が加わっています。しかし適切に手を加えなければ、森は荒廃する一方です。人間がほどよい距離感で手を加えることで、長期的かつ循環的な資源利用を生み出す点が焼畑の知恵の巧みなところです。

焼畑と聞くと、山間部の辺鄙な場所で営まれてきたような印象がありませんか? それは近年の調査の対象が面積規模の大きな焼畑だっただけで史料をさぐれば平地や島嶼部でも焼畑がおこなわれてきたことがわかります。また、熱帯に限らずフィンランドなどでも焼畑が営まれてきました。焼畑は地球上のどんな場所でもできる、非常に適応力のある資源利用の方法なのです。視点を変えれば、モンスーンアジアで営まれてきた水田稲作の方がローカルな農耕なのかもしれません。

食糧の獲得が地球規模で問題になっています。焼畑には我々が学ぶべき、持続可能な食糧生産のヒントが隠されているのではないでしょうか。（聞き手・事務局）

日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展
邂逅する写真たち ――モンゴルの100年前と今
会期 2022年5月31日(火)まで
会場 特別展示館
100 年の時空を越えた邂逅――出逢い――がテーマの特別展です。100 年前と現代のモンゴルを、写真をとおして紹介します。新しいモンゴルとの出逢いをお楽しみください!

企画展関連書籍
季刊民族学177号
焼畑と文明 ――五木村から世界へ
焼畑とは人類にとってどのような営みなのか、佐々木高明の焼畑研究の原点の地、五木村から発信します。
会員価格 2,200 円（税込）
一般価格 2,750 円（税込）

274 号（2022 年 7 月 1 日発行）

国立民族学博物館
友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER
No.274 2022.7▸8
「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。
発行日 2022 年 7 月 1 日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

インタビュー 卯田 宗平 先生（コレクション展示プロジェクト・リーダー）

現代中国の鵜飼を記録した写真・映像展。

◆コレクション展示「現代中国を、カワウと生きる――鵜飼い漁師たちの技」◆会期:2022年8月2日(火)まで

――展示について教えてください。

この展示は、国立民族学博物館が所蔵する鵜飼い船や、私が中国各地で撮影した鵜飼にかかわる写真、映像を公開することでカワウと生きる漁師たちの技を紹介するものです。鵜飼とは鵜を利用して魚を捕る漁法です。このようにいうと、鵜飼という漁法は非常にシンプルです。字数にすると二〇字ほどで説明できます。ただ鵜飼をよく見ると、じつにさまざまな疑問がでてきます。たとえば、なぜ鵜は逃げないのか、何を捕っているのか、どのような漁具を使うのか、生業として成りたつのか、などです。こうした疑問を解くことは、鵜飼の技術や知識だけでなく、中国の多様な自然環境や淡水魚の食文化、動物利用の特徴などを知ることにもつながります。今回は、鵜飼を切り口に隣国への理解を深めるといった意図もあります。

とくに、展示では私が撮影した写真や映像のなかで中国の鵜飼を特徴づけるものを選びました。中国における鵜飼の特徴とは、地域による技術の多様さとカワウの人工繁殖、生業としての漁法です。本展示では、このような特徴を踏まえながら写真や映像、標本資料を「中国各地でみられる鵜飼」「持ち運びが便利な双胴船」「カワウを繁殖させる技術」「カワウを利用した漁の技術」という四つのテーマに分けて紹介しています。地味ですが、多くの写真や映像は本邦初公開です。

じつは、今回の展示は、私が二〇二一年に出版した『鵜と人間――日本と中国、北マケドニアの鵜飼をめぐる鳥類民俗学』をもとに構成しています。この本では、日本と中国、そして東欧に位置

船の止まり木に20羽ほど乗せて出漁する漁師たち。カワウが逃げていくことはない。2006年9月、山東省微山湖

アーカイブズ動画公開しました!

第 523 回友の会講演会
日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展「邂逅する写真たち――モンゴルの 100 年前と今」関連
モンゴルとSDGs
4月2日（土）に国立民族学博物館インテリジェントホール（講堂）にて開催された第523 回 国立民族学博物館友の会講演会「モンゴルとSDGs」の模様をアーカイブズ動画として公開しました。
環境問題にとどまらず、グローバルな時代を生きる私たちの行末にまで話題が及んだ本講演会を、ぜひご覧ください。
友の会ホームページ：https://www.senri-f.or.jp/523tomo/

話者
山極 壽一（総合地球環境学研究所所長）
小長谷 有紀（民博客員教員、日本学術振興会監事）

275 号（2022 年 9 月 1 日発行）

国立民族学博物館
友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER
No.275 2022.9▸10
「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。
発行日 2022 年 9 月 1 日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

実行委員長インタビュー 菊澤 律子 先生

特別展「*Homō loquēns*『しゃべるヒト』―― ことばの不思議を科学する」

展示をとおして、言語のおもしろさを見つけてほしい。

［会期］2022 年9月1日(木)–11 月 23 日(水・祝)
［会場］国立民族学博物館 特別展示館

――展示について教えてください。

今回の特別展は言語をテーマとしています。言語の展示というと、みなさんは言語の多様性や外国語学習に関する内容を期待されるかもしれません。けれども今回の特別展は、その期待を良い意味で裏切るような内容となっています。

特別展は大きくわけて「コトバのしくみ」と「コトバと多様性」というふたつのテーマで構成しました。前者では、どうしてことばは伝わるのか、私たちはことばを使うときにどのように身体を使っているのか、どのようにことばを習得するのかといった〝言語のメカニズム〟に焦点を当てています。後者では、言語の多様性はもちろんのこと、個人とことばとの関わり方が多様であること、ことばにかかわる研究分野がたくさんあることなどを取りあげ、〝言語に関する多様性〟について紹介しました。みんぱく本館の言語展示は、例えば、世界にはさまざまな言語や語順があるというような、言語の多様性に主眼を置いていますが、特別展では、言語の多様性に関する紹介は一部にとどめ、ことばのもつ多様な側面を知ってもらえるように工夫しました。問いかけるような仕掛けも多く、全体をとおして利用者に〝考えてもらう〟展示になっています。紹介する言語としては音声言語と手話言語を対象にしていることに加え、解説パネルに日本語、英語、日本語手話の三言語を使用したことは新しい試みになるかと思います。

＼国立民族学博物館友の会LINE公式アカウントを開設しました！／

友の会が企画する刊行物やイベントの情報を中心に定期的に発信します。
会員先行予約のある館内催しの情報も随時お届けします。
会員以外の方のご登録も大歓迎です！
QRコードを読み取って友だち追加してみてください！
登録方法
①LINEを起動
②［その他］→［友だち追加］→［QRコード］を選択
③カメラが起動したらQRコードを読み取り、［追加］を選択したら完了です。
※LINE及びLINEロゴは、LINE株式会社の登録商標です。

276 号（2022 年 11 月 1 日発行）

国立民族学博物館
友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER
No.276 2022.11▸12
「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。
発行日 2022 年 11 月 1 日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

友の会の現地訪問企画再開します！

研究者同行の国内現地訪問企画「体験セミナー」。感染症の状況を踏まえて三年間お休みしていましたが、とうとうこの冬、開催します！再開後、第一回目の企画では、『季刊民族学』一七五号でも取り上げた伊勢大神楽を映像・レクチャー・現地訪問の三本立てでお楽しみいただきます。研究者同行の現地訪問企画はみんぱく友の会の醍醐味です。みなさんぜひご参加ください。

第83回体験セミナー

旅する獅子 伊勢大神楽 総舞見学

今夏、みんぱく映像民族誌の新番組として「それでも獅子は旅を続ける――山本源太夫社中 伊勢大神楽日誌」が加わりました。

伊勢大神楽とは、厄払いの獅子舞と「放下芸」とよばれる曲芸を演じながら、一年をとおして西日本各地を巡行する集団とその芸能を指します。この獅子舞を見ると伊勢参詣に代わるご利益があると信じられ、各地で受け入れられてきました。毎年一二月二四日に各地を巡行する五つの社中が参集し、三重県桑名市太夫の増田神社で獅子舞と放下芸を奉納します。講社にとって一年を締めくくる行事でもある、この増田神社の総舞をみなさんと一緒に見学します。映像・レクチャー・現地訪問の三本立てで伊勢大神楽に迫ります。

同行講師 神野 知恵（人文知コミュニケーター、民博特任助教）
現地訪問 2022 年 12 月 24 日（土）
映像視聴・レクチャーの実施日はプログラムをご覧ください。
費用 12,000 円
募集人数 20 名（最少催行人数 15 名・先着順）
申込締切 2022 年 11 月 15 日（火）
※伊勢大神楽の総舞は神事芸能です。参加条件や注意事項は下記催し詳細ページのフライヤーをご確認ください。
催し詳細・受付フォーム
https://www.senri-f.or.jp/83taiken/

総舞のフィナーレを飾る「魁曲」撮影・神野知恵、2018年

プログラム

step1 映像視聴 みんぱくの映像をご自宅で！
新番組をはじめ、伊勢大神楽をテーマとするみんぱくの映像番組3本をご自宅でお楽しみいただきます。
●配信期間 11月25日（金）～12月2日（金）

step2 レクチャー 映像制作・調査の裏側に迫る！
番組制作の裏側、伊勢大神楽の総舞について同行講師の神野先生にお話しいただきます。オンライン（中継・アーカイブ公開期間あり）でもご視聴いただけます。
●話題「旅する獅子、伊勢大神楽の一年を追う ～映像取材と総舞見学のよもやま話～」
●日時 12月3日（土）10:30～12:00
●会場 みんぱく 第3セミナー室（オンライン配信あり）

step3 現地訪問 伊勢大神楽 総舞を見学！
現地・増田神社（三重県桑名市）で総舞を見学します。神楽師たちの妙技の数々をお楽しみください。
●開催日 12月24日（土）
JR桑名駅 10時頃集合→15時頃解散（予定）
12:30～13:30 伊勢大神楽総舞 見学
13:30～14:30 伊勢大神楽講社の方のお話
総舞の待機時間は本企画限定オリジナル音声ガイドをご用意。お札とお守りをお持ち帰りいただきます。

販売中！ 2023年 国立民族学博物館オリジナルカレンダー
海のくらしアート 東南アジアとオセアニアの漁具・舟具・儀礼用具

12月13日(火)まで開催中の企画展「海のくらしアート展――モノからみる東南アジアとオセアニア」の展示資料から選びました。
友の会会員価格 1,287円（税込）
定価 1,430円（税込）
お問い合わせ
みんぱくミュージアム・ショップ（水曜日定休）
e-mail shop@senri-f.or.jp
オンラインショップ「World Wide Bazaar」
https://www.senri-f.or.jp/shop/

巡回展のご案内 みんぱくのビーズ資料が東京にまいります！
ビーズ ――つなぐ かざる みせる
国立民族学博物館コレクション
会期：2022 年 11月15日(火) ～2023 年 1月15日(日)
会場：渋谷区立松濤美術館
ビーズには、人類が積み重ねてきた歴史や文化が凝縮されています。一粒から無限に広がるビーズの世界をご堪能ください。
観覧料
大人800円、大学生640円、高校生・60歳以上400円、小中学生100円
※ビーズ割引（ビーズ着用で適用）・各種割引あり。
休館日
月曜日（ただし1月9日は開館）、祝日の翌日、年末年始
渋谷区立松濤美術館
https://shoto-museum.jp/

277 号（2023 年 1 月 1 日発行）

国立民族学博物館
友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER
「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。
No. 277
2023.1 ▸ 2
発行日 2023 年 1 月 1 日
編集・発行　公益財団法人千里文化財団

謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

近年の予測できない出来事は、人類がかかえるさまざまな問題の困難さをあらためて浮き彫りにしました。これらの難題に向き合う上で、当財団では、国立民族学博物館友の会の活動等をとおして、国立民族学博物館の研究や資料の蓄積を市民の皆さまに提供し、研究者と市民がともに考え行動する基盤を形成していけるよう努力してまいります。今後とも引き続き変わらぬご支援をよろしくお願い申しあげます。

吉田館長より新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の収束がまだ見通せない中での年明けとなりました。一方で、私たちの生活に向けた制限は、大幅に緩和されるようになってきています。これからは、この状態を「常態」として、改めて日々の生活を組み立てなおしていくことが、わたしたちに求められてくるようです。

みんぱくの活動も、ようやく、元の状態に復してきています。およそ三年間、文字通り「手も足も出ない」状況にあった研究者による海外でのフィールドワークも、一斉に再開されました。海外の研究者を招いた対面でのシンポジウムや研究集会も、活発におこなわれるようになっています。また、昨年の末からは、海外からの外交使節や、在日の各国大使館、総領事館の関係者の来訪が、目立って増えてきています。コロナ禍前に築きあげた、研究・博物館活動の国際的ハブとしてのみんぱくの位置づけが、実を結び始めている証のように思えます。二〇二五年大阪・関西万博まで、あと二年半。一九七〇年大阪万博の最大のレガシーとして認知されているみんぱくへの期待は、これから、国内外でますます大きくなってくるものと予想されます。

みんぱくは、来年二〇二四年には、創設五〇周年を迎えることになります。ひとつの機関にとって、五〇年を経た時期というのは、その半世紀にわたる歩みを振り返り、未来に向けた展望を開く上で、重要な節目になるものと思われます。その節目にむけた、みんぱく五〇年史の編纂をはじめとするさまざまな事業の準備は、今年度に佳境を迎えます。

みんぱくにとってのこの重要な時期にあたり、友の会の皆さまの引き続きのご支援を心よりお願いいたします。

新しい年が皆さまにとりまして実り多い年でありますよう、お祈りしております。

吉田憲司

巡回展のご案内

ビーズ
──つなぐ かざる みせる
国立民族学博物館コレクション

会期：～2023 年 1月15日(日)
会場：渋谷区立松濤美術館

ビーズには、人類が積み重ねてきた歴史や文化が凝縮されています。一粒から無限に広がるビーズの世界をご堪能ください。

観覧料
大人800円、大学生640円、
高校生・60歳以上400円、小中学生100円
※ビーズ割引（ビーズ着用で適用）・
各種割引あり。
休館日
月曜日(※1月9日は開館)、祝日の翌日、年末年始

渋谷区立松濤美術館
https://shoto-museum.jp/

驚異と怪異
──想像界の生きものたち

会期：2023 年 3月11日(土)
～5月14日(日)
会場：福岡市博物館 特別展示室

世界の人々は常識や慣習から逸脱した「異」なるものを、どのように認識し、説明し、描いてきたのでしょうか。奇妙で怪しい、不気味だけどかわいい、世界の霊獣・幻獣・怪獣が大集合!

観覧料
大人1,600円(1,400円)、中高生1,200円(1,000円)、
小学生800円(600円)
※( )内は前売料金、各種割引あり。
休館日
月曜日

福岡市博物館
http://museum.city.fukuoka.jp

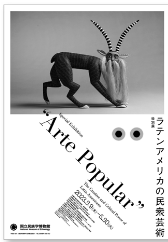
278 号（2023 年 3 月 1 日発行）

国立民族学博物館
友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER
「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。
No. 278
2023.3 ▸ 4
発行日 2023 年 3 月 1 日
編集・発行　公益財団法人千里文化財団

実行委員長インタビュー　鈴木 紀（すずき もとい） 先生

・・・特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」・・・

異なる歴史過程の併存が、民衆芸術の多様性を生み出している。



会期・2023年 3月 9日(木)－5月 30日(火)
会場・国立民族学博物館 特別展示館

──特別展について教えてください。

ラテンアメリカでは、民衆のつくる洗練された手工芸品を「アルテ・ポプラル（民衆芸術）」と呼びます。みんぱくでは二〇一九年に、企画展「アルテ・ポプラル──メキシコの造形表現のいま」を開催しましたが、今回の特別展では対象地域をメキシコからラテンアメリカ全域に拡げ、みんぱくの所蔵資料を中心に約四〇〇点を展示します。

特別展は五つの章で構成しました。プロローグにあたる第一章「民衆芸術と出会う」のあと、「民衆芸術の誕生──ラテンアメリカ形成の過程」、「民衆芸術の成熟──芸術振興の過程」、「民衆芸術の拡大──記憶と抵抗の過程」という中心になる三つの章が続き、最後は第五章「ラテンアメリカ世界の多様性」です。民衆芸術はラテンアメリカにおける造形芸術のひとつのジャンルですが、このことばは、三つの異なった意味で使われていると考えています。

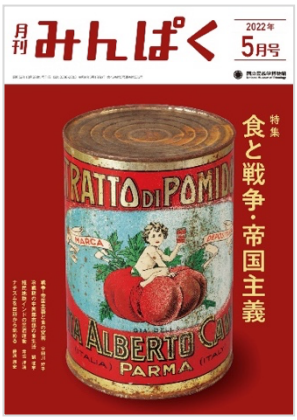
ひとつは諸文化の造形表現。この意味では、先コロンブス期以来の文化混淆の歴史のなかで多様な民衆芸術が生まれたことになります。ふたつめが国民の芸術として振興されたもの。二〇世紀前半にメキシコとペルーからはじまった芸術振興政策では、政府が国民文化を高揚する手段として各地の手工芸品に着目し、「民衆芸術」と名付けて、芸術としての評価を確立しようと試みました。博物館を建てたり、商業化を支援したりするなど、幅広い施策を通じて民衆芸術が振興されました。この時期に芸術のひとつのジャンルとして国際的にも知られるようになります。その関心はラテンアメリカの他の国にも波及して、民衆芸術を展示する博物館が各地にできました。

国立民族学博物館友の会へのご入会をプレゼントにご利用ください！

国立民族学博物館友の会へのご入会を贈り物にしてみませんか。
送り主様からのメッセージを添えて会員証をお届けします。
刊行物、展示観覧、各種イベントへの参加をとおして、世界の文化に触れていただくことができます。
入学、就職、誕生日、開業のお祝いに、ぜひご利用ください。

郵便局で、振替用紙の備考欄に、ご送付先のご住所及びお名前（フリガナ）をご記入のうえ、年会費（正会員13,000 円、ミュージアム会員5,000 円）をご送金ください。正会員の方は『季刊民族学』巻末に綴じ込みの振替用紙もご利用いただけます。
振替口座番号：00970-9-317960
加入者名：公益財団法人千里文化財団

国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』（2022年度発行表紙）



2023年国立民族学博物館オリジナルカレンダー

国立民族学博物館ミュージアム・ショップ、
オンラインショップでもご購入いただけます。

海のくらしアート

東南アジアとオセアニアの漁具・舟具・儀礼用具

Maritime People and Art of Their World: Material Culture in Southeast Asia and Oceania

2023 年の国立民族学博物館オリジナルカレンダーは、企画展「海のくらしアート展―モノからみる東南アジアとオセアニア」(2022 年9月8日[木]～12 月13 日[火]) の展示資料から選びました。海のくらしから生まれたモノの魅力を一年をとおしてお楽しみください。

定価 1,430円〈税込〉

◆サイズ　25cm×25cm (開くとタテ50cm×ヨコ25cm) オールカラー 28頁 中綴じ
◆ 通信販売の場合、別途発送手数料が必要です

国立民族学博物館友の会 会員の方は特別価格にてご購入いただけます。

国立民族学博物館友の会 会員価格　1冊 1,287円〈税込〉
5冊以上まとめてご購入の場合は、1冊 1,144円〈税込〉
◆ 通信販売の場合、別途発送手数料が必要です。

お問い合わせ
国立民族学博物館ミュージアム・ショップ　e-mail: shop@senri-f.or.jp　営業時間10:00～17:00　水曜日定休
オンラインショップ「World Wide Bazaar」 https://www.senri-f.or.jp/shop/

出前授業プログラムの実施報告

1) 助成金申請

公益財団法人大阪コミュニティ財団へ助成金申請をおこない採択された。
事業名称：「青少年のための、多様な文化と出会う出前授業」、助成金額：260,000 円

2) プログラムの開発

民博へ協力名義使用申請をおこない、出前授業「世界の文化で遊んで学ぼう！：ビーズで世界とつながろう！」プログラムへの協力として、民博（博物館事業係）所有のペーパービーズワークショップ資料、標本資料画像の借用等の提供を受けた。また助成金を利用して出前授業プログラムのパッケージ化をおこない、授業活用案の作成、配布・提示資料の作成、実物資料及びワークショップで使用する物品を整えた。限られた時間で対応できる出前授業のパッケージセットにより、参加者は講座料と材料費の負担のみで参加できるようにした。

開発したプログラム
(1)「ビーズで世界とつながろう―ペーパービーズ作りに挑戦！」
(2)「いちまい布を使ってみよう！―世界の一枚布・日本のふろしき」

3) 実施状況

・出前授業「ビーズで世界とつながろうーペーパービーズ作りに挑戦！」
① 京都府南丹市任意団体「こんこんひろば」主催イベント
訪問先：UZUMAKI CAFE（南丹市園部町宮町 61） 対象：小学生以上
実施日時：9 月 23 日（金・祝）14：00～15：45 参加人数：14 名
② 佐竹台地区青少年対策委員会主催イベント
訪問先：佐竹台市民ホール （吹田市佐竹台 2 丁目 5-1） 対象：小学生以上
実施日時：2023 年 1 月 29 日（日）10：30～12：00 参加人数：20 名
③ JICA 関西（JICA 奈良デスク）主催イベント
訪問先：天理駅南団体待合所／天理駅前広場コフフン（天理市川原城町 816） 対象：小学生
実施日時：2023 年 2 月 12 日（日）14：00～16：15 参加人数：16 名、付き添い見学者：11 名
④ 同志社中学校 かるちゃんぷる部 部活動
訪問先：同志社中学校（京都市左京区岩倉大鷺町 89） 対象：中学生
実施日時：2023 年 2 月 21 日（火）15：40～17：00 参加人数：19 名

・主催ワークショップ
① 巡回展「ビーズ」関連ワークショップ「フィールドワークで発見！ビーズのひみつ」
会場：石川県七尾美術館（七尾市小丸山台 1-1） 特別講師：池谷和信
参加費：無料 対象：小学 3 年生～中学 3 年生、各回 12 名（要事前申込）
開催日時・各参加人数：
8 月 13 日（土）14：00～15：30 参加人数：12 名・付添い見学人数：6 名
8 月 14 日（日）10：30～12：00 参加人数：12 名・付添い見学人数：4 名
14：00～15：30 参加人数：12 名・付添い見学人数：4 名
講師の池谷教授と共に、巡回展を見学し、自分のお気に入りのビーズ資料についてメモやスケッチをおこない、全体で発表・共有し、池谷教授のコメントをうけて、「ビーズ」について、各人の新たな発見を語ってもらった。
② ワークショップ「ビーズで世界とつながろう-ペーパービーズ作りに挑戦！」
会場： 吹田市資源リサイクルセンター/くるくるプラザ（吹田市千里万博公園４－３）
参加費：無料 対象：小学生以上（要事前申込）
開催日時：12 月 18 日（日）14：00～15：45 参加人数：23 名

国立民族学博物館（みんぱく）

世界のビーズをかんさつしよう！
なにでできている？
すりすりしている

新卒2年で課長級抜
若手の発想活用

国立民族学博物館巡回展開催報告

1）特別展「驚異と怪異　世界の幻獣と霊獣たち」（於：高知県立歴史民俗資料館）

会期：2022 年 4 月 29 日（金・祝）～6 月 26 日（日）【59 日間】

会場：高知県立歴史民俗資料館　３階　総合展示室（718.22 ㎡）〈南国市岡豊町八幡 1099-1〉

本展は、令和元年開催の特別展「驚異と怪異」の巡回展。近世以前、ヨーロッパや中東においては、人魚や一角獣といった不可思議だが実在するかもしれない生物や現象が「驚異」として自然誌の知識の一部とされてきた。また、東アジアにおいては、奇怪な現象や異様な生物の説明として「怪異」という概念が作りあげられてきた。高知展では、みんぱくの資料を中心に独自借用の資料も加え、龍、怪鳥、巨人など世界各地の人びとが創り出してきた不思議な生きものたちを紹介することで、人間の想像力の面白さを迫る展示をおこなった。

主催：高知県立歴史民俗資料館、国立民族学博物館、
　　公益財団法人千里文化財団、KUTV テレビ高知

後援：高知県教育委員会、高知新聞社、朝日新聞高知総局、毎日新聞高知支局、
　　読売新聞高知支局、NHK 高知放送局、KCB 高知ケーブルテレビ、エフエム高知

展示点数：約 350 点

観覧料：大人（18 才以上）800 円・団体（20 名以上）640 円・高校生以下無料

開館時間：9:00～17:00（ただし入場受付は 16:30 まで）　休館日：会期中なし

入館者数：12,665 名

広報実績：テレビ高知【テレビ CM】：4 月 20 日～6 月 26 日 ／ KUTV【特集】：4 月 26 日・4 月 29 日・5 月 25 日 ／NHK 高知：5 月 6 日・6 月 20 日 ／ NHK 松山：5 月 9 日 ／ 高知新聞：5 月 14 日・6 月 18 日・6 月 20 日 ／ 読売新聞：4 月 30 日 ／ RKC ラジオ：5 月 6 日 ／西日本ラジオ:5 月 17 日　他

関連イベント:

・オープニングトーク
日時：4 月 29 日（金・祝）【参加者数：31 名】

・ミュージアムトーク
日時：5 月 3 日（火・祝）14：00～～14：40【参加者数：30 名】
5 月 29 日（日）13：00～13：45【参加者数：26 名】
6 月 18 日（土）14：00～15：00【参加者数：25 名】
6 月 26 日（日）　9：30～10：45【参加者数 26 名】

・講演会 「幻獣・霊獣・怪獣　人はなぜモンスターを想像するのか?」
日時: 5 月 22 日(日) 14:00～16:00【参加者数：60 名】

・土佐幻獣セミナー　（各日 14:00～15:30）
「地の章」5 月　8 日(日)【参加者数：38 名】
「水の章」6 月　4 日(土)【参加者数：32 名】
「天の章」6 月 25 日(土)【参加者数：52 名】

・奇界・世界・想像界　山中由里子×佐藤健寿 クロストーク
日時:6 月 19 日(日) 14:00～16:00【参加者数：60 名】

・ワークショップ「幻獣仮面をつくろう」
日時：4 月 30 日（土）10：00～12：00、13：30～15：30【参加者数：合計 39 名】

・ワークショップ「牛乳パックで幻獣びっくり箱をつくろう」
日時：5 月 4 日（水・祝）10：00～16：00【参加者数：103 名】

・ワークショップ「牛乳パックで万華鏡をつくろう」
日時：5 月 7 日（土）10：00～16：00【参加者数：68 名】

2）国立民族学博物館コレクション「ビーズ―つなぐ・かざる・みせる」（於：石川県七尾美術館）

会期：2022 年 7 月 30 日（土）～ 9 月 11 日（日）【44 日間】

会場：石川県七尾美術館　第 1･2･3 展示室（計 761 ㎡）〈七尾市小丸山台 1-1〉

　貝殻やきのみや石やガラスなどさまざまな素材から作られるビーズ。いまから 10 万年前に誕生して現在にいたるまで、人びとの美への希求や祈り、人と人とのつながりを示すものとして親しまれてきた。みんぱくの所蔵するビーズ資料に加え、開催地である能登七尾出身の絵師・長谷川等伯の作品の中からビーズの装飾品が描かれた仏画の複製画や、能登の出土資料のほか、ビーズを身につけた仏像の展示もおこなった。

主催：石川県七尾美術館、国立民族学博物館、公益財団法人千里文化財団

後援：石川県、七尾市教育委員会、NHK 金沢放送局、MRO 北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、HAB 北陸朝日放送、エフエム石川、ラジオななお

展示点数：約 200 点

観覧料：一般 800 円・大高生 350 円・中学生以下無料

開館時間：9:00～17:00（入館は 16:30 まで）　休館日：会期中なし

入館者数：3,874 名

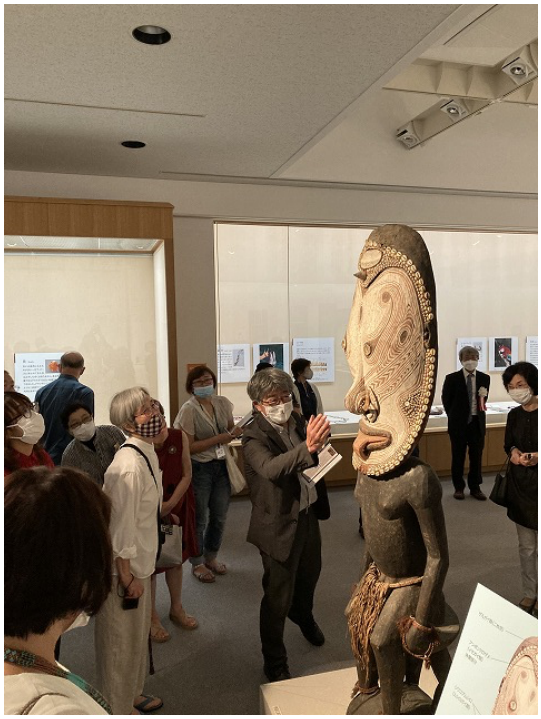
広報実績：北國新聞：7 月 31 日 ／ 読売新聞：7 月 31 日 ／ 北陸中日新聞：8 月 15 日 ／ 中日新聞：8 月 15 日 ／ のとルネ（Web）：8 月 7 日 ／ NHK じわもんラジオ：8 月 5 日 ／ ラジオななお：8 月 6 日 ／ 七尾ケーブルテレビ：8 月 10 日～随時 ／ NHK 金沢：8 月 13 日 ／ NHK 名古屋：9 月 3 日　他

関連イベント:

・ギャラリートーク〈各 45 分〉　話者：池谷和信
日時：7 月 30 日（土）10：45～【参加者 43 名】 ／ 14：00～【参加者数：26 名】 ／
9 月 11 日（日）14：00～【参加者数：25 名】

・ワークショップ「フィールドワークで発見！ビーズのひみつ」〈各 1 時間 30 分〉
日時：8 月 13 日（土）14：00～15：30【参加者数：12 名】 ／
8 月 14 日（日）10：30～12：00【参加者数：12 名】 ／ 14：00～15：30【参加者数：12 名】

・特別セミナー「ビーズに込められたメッセージ　― 人と仏をかざる」
日時：8 月 27 日（土）13：30～15：30【参加者数：44 名】



3)「ビーズ-つなぐ　かざる　みせる　国立民族学博物館コレクション」（於：渋谷区立松濤美術館）

会期：2022 年 11 月 15 日（火）～2023 年 1 月 15 日（日）【62 日間】

会場：渋谷区立松濤美術館　2 階展示室（148 ㎡）・B1 階展示室（203 ㎡）〈東京都渋谷区松濤 2-14-14〉

ある特定の地域の文化に焦点を当てるのではなく、地球上に普遍的にみられる“ビーズ“というものをとおして、「人類とは何か」という人類学の基本課題を正面から追求すること、特に、私たち人類「ホモ・サピエンス」の文化の特質を理解することを目的として、国立民族学博物館の所蔵資料を中心に、世界における多様な素材で作られたビーズや社会的役割を担ったビーズなど、世界各地のさまざまなビーズを用いた展示をおこなう。なお、本展示では、“ビーズ”を「さまざまな個々の素材をつなげたもの」として定義し、2017 年開催の国立民族学博物館　特別展「ビーズ」における展示構成を踏襲する。また、大都市圏のビーズ文化の特徴（若者や富裕層のビーズ、ガラスビーズ生産地）が見える展示をおこなった。

主催：渋谷区立松濤美術館、国立民族学博物館、公益財団法人千里文化財団

展示点数：約 315 点

観 覧 料 ：一般 800 円（640 円）・大学生 640 円（510 円）・高校生+60 歳以上 400 円（320 円）・小中学生 100 円（80 円）　※（　）内は渋谷区民の入館料、入館日当日にビーズ（さまざまな部材に穴を開け、複数個を糸などでつないだもの）を身に着けてご来館されたお客様は、通常料金から 2 割引でご入館できます。割引併用は不可。

開館時間：10:00～18:00（入館は 17:30 まで）　休館日：月曜日（ただし 1/9 は開館）・11/24（木）・12/29（木）～1/3（火）・1/10（火）

入館者数：9,455 名

広報実績：〔WEB 掲載〕アートアジェンダ ／ スフマート ／ FASHION PRESS ／ タイムアウト東京 ／ イベニア ／ ウォーカープラス ／ 青い日記帳 ／ WEB 版美術手帖 ／ インターネットミュージアム ／ JAPAN TEXTILE NEWS ／ Artscape ／ 〔新聞・雑誌掲載〕東洋経済日報 ／ 大人のおしゃれ手帳 12 月号 ／ 朝日新聞夕刊 ／ 読売新聞／ MOE ／ 〔ラジオ〕J-WAVE ／ ACROSS ／ THE SKY

関連イベント:

・記念講演会「人間にとってビーズとはなにか」
日時：11 月 19 日（土）14:00～15:30　（定員 40 名）【参加者数：33 名】

・シンポジウム「ビーズからのメッセージ―つなぐ・かざる・みせる―」
日時：12 月 10 日（土）14:00～16:00　（定員 40 名）【参加者数：48 名】

・ワークショップ「ビーズでミニ・クリスマスリースをつくろう！」
日時：12 月 17 日（土）11:00～13:00&14:00～16:00　【参加者数：計 86 名】
12 月 23 日（金）14:00～17:00　【参加者数：22 名】

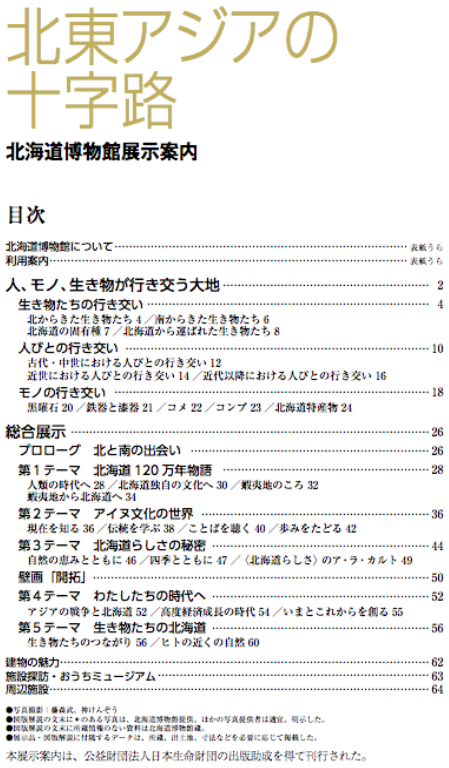
・展覧会担当学芸員によるギャラリートーク（各 14:00～　40 分間）
11 月 18 日(金)【参加者数：21 名】/ 11 月 26 日（土）【参加者数：26 名】/ 1 月 8 日(日)【参加者数：46 名】

１階展示室風景

Ｂ１階展示室風景

北海道**博物館 展示案内『北東アジアの十字路』**（2023 年 3 月 1 日発行）

日本生命財団による博物館展示案内出版助成による各地の博物館展示案内の編集協力を 1982 年よりおこなっている。（地域文化の振興・青少年の文化教育に資するため、全国各地の博物館の協力をえて各博物館の展示案内を出版する事業）


北東アジアの
十字路
北海道博物館展示案内

目次

北海道博物館について …… 表紙うら
利用案内 …… 表紙うら
人、モノ、生き物が行き交う大地 …… 2
生き物たちの行き交い …… 4
北からきた生き物たち 4／南からきた生き物たち 6
北海道の固有種 7／北海道から運ばれた生き物たち 8
人びとの行き交い …… 10
古代・中世における人びとの行き交い 12
近世における人びとの行き交い 14／近代以降における人びとの行き交い 16
モノの行き交い …… 18
黒曜石 20／鉄器と漆器 21／コメ 22／コンブ 23／北海道特産物 24
総合展示 …… 26
プロローグ 北と南の出会い …… 26
第1テーマ 北海道 120 万年物語 …… 28
人類の時代へ 28／北海道独自の文化へ 30／蝦夷地のころ 32
蝦夷地から北海道へ 34
第2テーマ アイヌ文化の世界 …… 36
現在を知る 36／伝統を学ぶ 38／ことばを聴く 40／歩みをたどる 42
第3テーマ 北海道らしさの秘密 …… 44
自然の恵みとともに 46／四季とともに 47／（北海道らしさ）のア・ラ・カルト 49
壁画「開拓」 …… 50
第4テーマ わたしたちの時代へ …… 52
アジアの戦争と北海道 52／高度経済成長の時代 54／いまとこれからを創る 55
第5テーマ 生き物たちの北海道 …… 56
生き物たちのつながり 56／ヒトの近くの自然 60
建物の魅力 …… 62
施設探訪・おうちミュージアム …… 63
周辺施設 …… 64

●写真撮影・掲載元、特にんぞう
●図版解説の文末に＊のある写真は、北海道博物館提供。ほかの写真提供者は適宜、明示した。
●図版解説の文末に所蔵情報のない資料は北海道博物館蔵。
●展示品・図版解説に付随するデータは、所蔵、出土地、寸法などを必要に応じて掲載した。

本展示案内は、公益財団法人日本生命財団の出版助成を得て刊行された。

■過去の実績内容

1）滋賀県立琵琶湖博物館 展示案内『古代湖とともに生きる』（2022 年 3 月 1 日発行）
2）愛媛県総合科学博物館　展示案内『山と海が育てた愛媛の産業』（2021年3月1日発行）
3）ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）展示案内『瀬戸内の交流―まちのにぎわい人のつながり』（2020年 2月20日発行）
4）島根県立三瓶自然館 展示案内『峰々の記憶をたどって』（2019年3月1日発行）
5）フォッサマグナミュージアム　展示解説『フォッサマグナってなんだろう』第5版
（2019年7月 30日発行）
6）『北海道立北方民族博物館　総合案内』第 6 版（2019 年 12 月 31 日発行）
7）東北歴史博物館　展示案内『共生と対立―海と大地をめぐる物語』（2018年2月23日発行）
8）九州歴史資料館　展示案内『交流のかなめ　ふくおか』（2017年2月20日発行）

2025 年大阪・関西万博関連シンポジウム開催報告

国立民族学博物館特別研究「コロナ禍に対するローカルな対処としての『文化の免疫系』」に関する比較研究関連事業

日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2022
「人類よ、どこへ行く？　ポストコロナの世界を占う」開催報告

大阪万博（EXPO'70）が生み出したレガシーである万博記念公園や国立民族学博物館が協働し、「人類の進歩と調和」をテーマとした EXPO'70 から、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした expo2025 への展開をふまえ、「人類・いのち・万博」をテーマに、expo2025、さらにその先の未来について議論するシンポジウムを 2021 年度より実施。

今回のシンポジウムでは、持続可能性を担っていた生物学的な多様性を失った人類は、文化的多様性を保証することでのみ持続可能ではないか、という議論、およびヴァーチャル世界とリアル世界の的確な組み合わせを考えていくことが、ポストコロナ社会を考えるうえでも expo2025 を考えるうえでも重要であるという議論が、とくに関心を呼んだ。『季刊民族学』184 号に報告を収録。

開催日時：10 月 29 日（土）13:30〜16:30（13:00 開場）

会　　場：国立民族学博物館　みんぱくインテリジェントホール（講堂）

プログラム：

13:30　主催者挨拶：中牧弘允（千里文化財団理事長）
13:40　シンポジウム開催にあたって：吉田憲司（国立民族学博物館長）
第 1 部コロナ禍のなかを生きる
14:00　講演 1）コロナ禍が変えた精神風景：斎藤環（筑波大学教授）
14:20　講演 2）社会の疾病としての COVID-19：朝野和典（大阪健康安全基盤研究所理事長）
第 2 部コロナ禍の意味するもの
14:40　講演 3）抗体としてのモンスター ― 表象の疫学から解くアマビエ現象：
山中由里子（国立民族学博物館教授）
15:00　講演 4）哲学からみたコロナ禍の意味：中島隆博（東京大学東京文化研究所教授）
15:20　休憩（10 分間）
15:30　パネルディスカッション：ファシリテーター：島村一平（国立民族学博物館准教授）
16:30　閉幕

開催方式：オンライン方式＋会場参加
いずれも事前予約制。会場参加は申込み順。聴講は無料。会場聴講は要展示観覧券。

主　　催：国立民族学博物館

共　　催：大阪府、公益財団法人千里文化財団

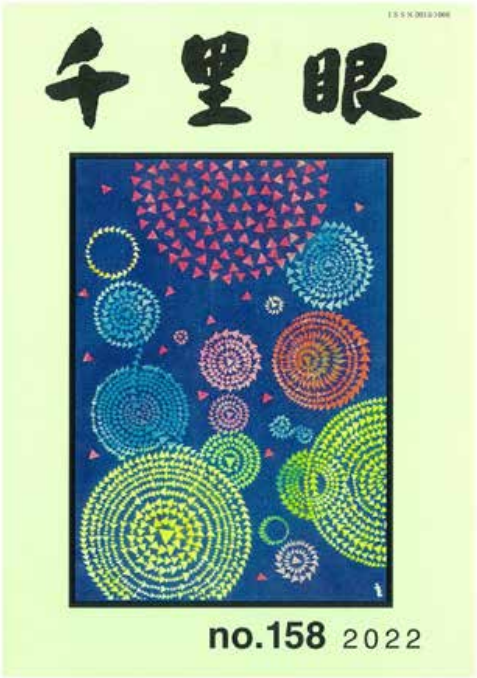
後　　援：公益財団法人２０２５年日本国際博覧会協会

協　　力：国立大学法人大阪大学、公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会、大阪モノレール株式会社、
万博記念公園マネジメント・パートナーズ、公益財団法人大阪日本民芸館

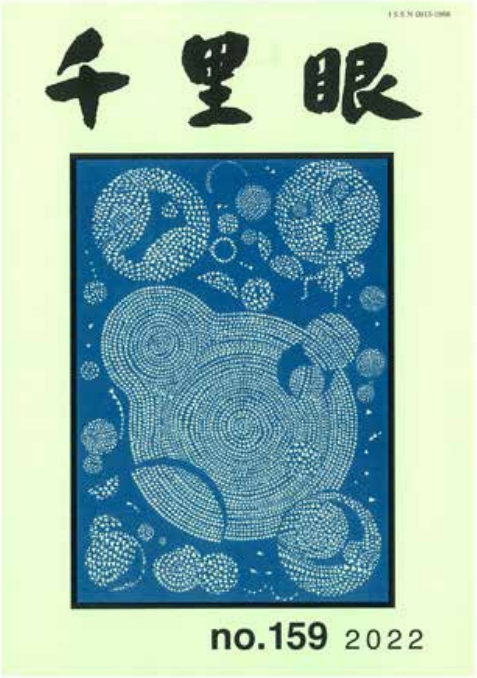
参加人数：　57 名（会場）　94 名（オンライン）　※登壇者、運営スタッフをのぞく。

同人誌『千里眼』（2022 年度発行表紙）

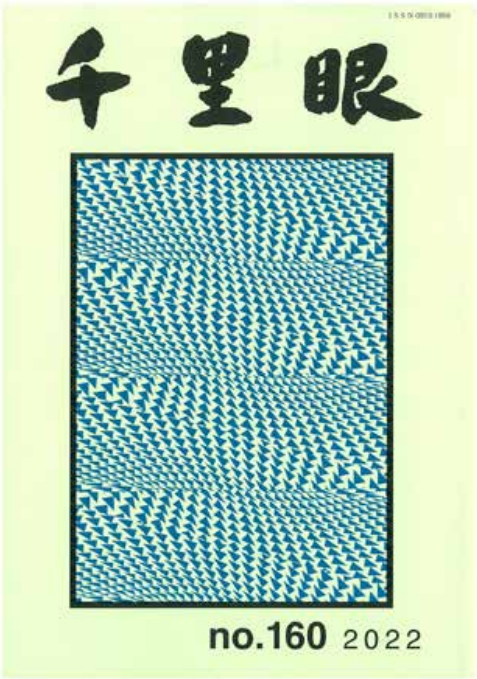
158 号（2022 年 6 月 25 日発行）



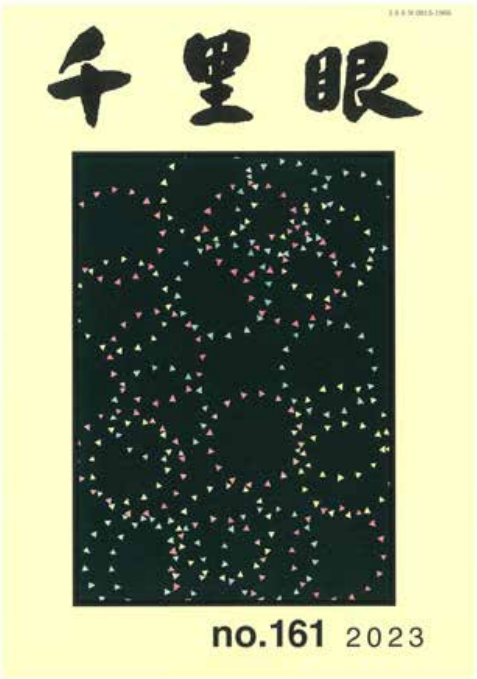
159 号（2022 年 9 月 25 日発行）



160 号（2022 年 12 月 25 日発行）



161 号（2023 年 3 月 25 日発行）



■ 令和４（2022）年度収支決算報告

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

（単位:円）

	予算	実績	差異
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	**1,000**	**1,000**	**0**
基本財産受取利息	1,000	1,000	0
受取会費	**34,200,000**	**28,418,800**	**5,781,200**
維持会員	11,000,000	8,830,000	2,170,000
正会員	19,500,000	16,629,000	2,871,000
家族会員	100,000	80,000	20,000
キャンパスメンバーズ	2,150,000	1,873,800	276,200
ミュージアム会員	1,000,000	727,000	273,000
フリーパス会員	450,000	279,000	171,000
事業収益	**234,798,000**	**239,652,244**	**△ 4,854,244**
事業収益	40,500,000	68,581,285	△ 28,081,285
受託事業収益	193,298,000	170,732,885	22,565,115
広告収益	1,000,000	338,074	661,926
受取補助金等	**1,000,000**	**4,707,546**	**△ 3,707,546**
受取助成金	1,000,000	4,707,546	△ 3,707,546
雑収益	**1,000**	**460,231**	**△ 459,231**
受取利息	1,000	162	838
その他の雑収益	0	460,069	△ 460,069
経常収益計	**270,000,000**	**273,239,821**	**△ 3,239,821**
(2)経常費用			
事業費	**248,630,000**	**262,080,576**	**△ 13,450,576**
給料手当	121,500,000	129,217,231	△ 7,717,231
臨時雇賃金	23,000,000	24,047,986	△ 1,047,986
退職給付引当金繰入額	1,000,000	2,547,662	△ 1,547,662
法定福利費	18,500,000	20,165,798	△ 1,665,798
福利厚生費	500,000	469,524	30,476
旅費交通費	5,600,000	3,056,396	2,543,604
通信運搬費	14,000,000	13,172,802	827,198
減価償却費	180,000	342,897	△ 162,897
事務委託料	100,000	1,951,188	△ 1,851,188
印刷製本費	13,500,000	13,523,522	△ 23,522
諸謝金	600,000	502,061	97,939
会議費	500,000	205,283	294,717
光熱水費	400,000	464,677	△ 64,677
消耗品費	600,000	814,353	△ 214,353
負担金	16,900,000	1,200	16,898,800
原稿写真委託報酬	2,200,000	4,098,397	△ 1,898,397
支払手数料	700,000	983,562	△ 283,562
賃借料	3,600,000	3,615,103	△ 15,103
保険料	0	2,205	△ 2,205
修繕費	50,000	53,900	△ 3,900
著作権等使用料	50,000	15,500	34,500

（単位：円）

	予算	実績	差異
教材等制作購入費	24,000,000	23,868,638	131,362
教材出版物等棚卸差額	1,000,000	1,655,972	△ 655,972
館内ｻｰﾋﾞｽ関係費	150,000	156,618	△ 6,618
租税公課	0	17,147,975	△ 17,147,975
雑費	0	126	△ 126
管理費	**20,780,000**	**14,262,366**	**6,517,634**
給料手当	11,000,000	6,178,247	4,821,753
臨時雇賃金	100,000	0	100,000
退職給付引当金繰入額	1,000,000	0	1,000,000
法定福利費	1,450,000	1,147,008	302,992
福利厚生費	100,000	189,007	△ 89,007
旅費交通費	100,000	131,455	△ 31,455
通信運搬費	650,000	458,536	191,464
減価償却費	30,000	39,962	△ 9,962
印刷製本費	150,000	42,240	107,760
諸謝金	3,400,000	3,479,918	△ 79,918
会議費	50,000	68,984	△ 18,984
光熱水費	120,000	145,802	△ 25,802
消耗品費	660,000	490,108	169,892
負担金	300,000	18,900	281,100
原稿写真委託報酬	250,000	204,850	45,150
支払手数料	120,000	219,439	△ 99,439
賃借料	1,150,000	887,214	262,786
保険料	0	250,980	△ 250,980
修繕費	150,000	122,266	27,734
租税公課	0	187,450	△ 187,450
経常費用計	**269,410,000**	**276,342,942**	**△ 6,932,942**
当期経常増減額	**590,000**	**△ 3,103,121**	**3,693,121**
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
雑収入	0	30	△ 30
経常外収益計	**0**	**30**	**△ 30**
(1)経常外費用			
雑損失	0	0	0
経常外費用計	**0**	**0**	**0**
当期経常外増減額	**0**	**30**	**△ 30**
当期一般正味財産増減額	**590,000**	**△ 3,103,091**	**3,693,091**
一般正味財産期首残高	**81,745,654**	**81,745,654**	**0**
一般正味財産期末残高	**82,335,654**	**78,642,563**	**3,693,091**
Ⅱ 正味財産期末残高	**82,335,654**	**78,642,563**	**3,693,091**

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

（単位：円）

	当年度	前年度	増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	**1,000**	**482**	**518**
基本財産受取利息	1,000	482	518
受取会費	**28,418,800**	**29,820,800**	**△ 1,402,000**
維持会員	8,830,000	9,130,000	△ 300,000
正会員	16,629,000	17,929,000	△ 1,300,000
家族会員	80,000	96,000	△ 16,000
キャンパスメンバーズ	1,873,800	1,823,800	50,000
ミュージアム会員	727,000	668,000	59,000
フリーパス会員	279,000	174,000	105,000
事業収益	**239,652,244**	**220,014,433**	**19,637,811**
事業収益	68,581,285	28,600,739	39,980,546
受託事業収益	170,732,885	190,926,185	△ 20,193,300
広告収益	338,074	487,509	△ 149,435
受取補助金等	**4,707,546**	10,739,206	**△ 6,031,660**
受取助成金	4,707,546	10,739,206	△ 6,031,660
雑収益	**460,231**	**379**	**459,852**
受取利息	162	379	△ 217
その他の雑収益	460,069	0	460,069
経常収益計	**273,239,821**	**260,575,300**	**12,664,521**
(2)経常費用			
事業費	**262,080,576**	**235,628,918**	**26,451,658**
給料手当	129,217,231	124,869,343	4,347,888
臨時雇賃金	24,047,986	22,866,886	1,181,100
退職給付引当金繰入額	2,547,662	2,313,678	233,984
法定福利費	20,165,798	19,352,532	813,266
福利厚生費	469,524	345,122	124,402
旅費交通費	3,056,396	1,827,165	1,229,231
通信運搬費	13,172,802	7,927,092	5,245,710
減価償却費	342,897	183,408	159,489
事務委託料	1,951,188	1,495,120	456,068
印刷製本費	13,523,522	10,422,696	3,100,826
諸謝金	502,061	484,600	17,461
会議費	205,283	474,587	△ 269,304
光熱水費	464,677	348,845	115,832
消耗品費	814,353	623,870	190,483
負担金	1,200	16,927,625	△ 16,926,425
原稿写真委託報酬	4,098,397	3,340,386	758,011
支払手数料	983,562	785,394	198,168
賃借料	3,615,103	4,101,737	△ 486,634
保険料	2,205	0	2,205
修繕費	53,900	13,255	40,645
著作権等使用料	15,500	0	15,500
教材等制作購入費	23,868,638	15,496,013	8,372,625
教材出版物等棚卸差額	1,655,972	1,280,842	375,130
館内ｻｰﾋﾞｽ関係費	156,618	148,722	7,896
租税公課	17,147,975	0	17,147,975
雑費	126	0	126

（単位：円）

	当年度	前年度	増減
管理費	**14,262,366**	**22,883,837**	**△ 8,621,471**
給料手当	6,178,247	6,999,704	△ 821,457
退職手当	0	7,244,000	△ 7,244,000
法定福利費	1,147,008	1,237,506	△ 90,498
福利厚生費	189,007	92,217	96,790
旅費交通費	131,455	57,140	74,315
通信運搬費	458,536	544,964	△ 86,428
減価償却費	39,962	34,425	5,537
印刷製本費	42,240	169,630	△ 127,390
諸謝金	3,479,918	3,346,507	133,411
会議費	68,984	33,179	35,805
光熱水費	145,802	114,844	30,958
消耗品費	490,108	484,619	5,489
負担金	18,900	397,120	△ 378,220
原稿写真委託報酬	204,850	829,252	△ 624,402
支払手数料	219,439	198,243	21,196
賃借料	887,214	1,100,487	△ 213,273
保険料	250,980	0	250,980
修繕費	122,266	0	122,266
租税公課	187,450	0	187,450
経常費用計	**276,342,942**	258,512,755	**17,830,187**
当期経常増減額	**△ 3,103,121**	**2,062,545**	**△ 5,165,666**
2. 経常外増減の部			0
(1)経常外収益			
雑収入	30	0	**30**
経常外収益計	**30**	**0**	**30**
(1)経常外費用			
雑損失	0	4,600	△ 4,600
経常外費用計	**0**	**4,600**	**△ 4,600**
当期経常外増減額	**30**	**△ 4,600**	**4,630**
当期一般正味財産増減額	**△ 3,103,091**	**2,057,945**	**△ 5,161,036**
一般正味財産期首残高	**81,745,654**	**79,687,709**	**2,057,945**
一般正味財産期末残高	**78,642,563**	**81,745,654**	**△ 3,103,091**
Ⅱ 正味財産期末残高	**78,642,563**	**81,745,654**	**△ 3,103,091**

正味財産増減計算書内訳表

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

（単位：円）

科　　目	公益目的事業会計	法人会計	合計
	公益		
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	**0**	**1,000**	**1,000**
基本財産受取利息	0	1,000	1,000
受取会費	**2,879,800**	**25,539,000**	**28,418,800**
事業収益	**239,652,244**	**0**	**239,652,244**
事業収益	68,581,285	0	68,581,285
受託事業収益	170,732,885	0	170,732,885
広告収益	338,074	0	338,074
受取補助金等	**4,707,546**	**0**	**4,707,546**
受取助成金	4,707,546	0	4,707,546
雑収益	**460,069**	**162**	**460,231**
受取利息	0	162	162
その他の雑収益	460,069	0	460,069
経常収益計	**247,699,659**	**25,540,162**	**273,239,821**
(2)経常費用			
事業費	**262,080,576**	**0**	**262,080,576**
給料手当	129,217,231	0	129,217,231
臨時雇賃金	24,047,986	0	24,047,986
退職給付引当金繰入額	2,547,662	0	2,547,662
法定福利費	20,165,798	0	20,165,798
福利厚生費	469,524	0	469,524
旅費交通費	3,056,396	0	3,056,396
通信運搬費	13,172,802	0	13,172,802
減価償却費	342,897	0	342,897
事務委託料	1,951,188	0	1,951,188
印刷製本費	13,523,522	0	13,523,522
諸謝金	502,061	0	502,061
会議費	205,283	0	205,283
光熱水費	464,677	0	464,677
消耗品費	814,353	0	814,353
負担金	1,200	0	1,200
原稿写真委託報酬	4,098,397	0	4,098,397
支払手数料	983,562	0	983,562
賃借料	3,615,103	0	3,615,103
保険料	2,205	0	2,205
修繕費	53,900	0	53,900
著作権等使用料	15,500	0	15,500
教材等制作購入費	23,868,638	0	23,868,638
教材出版物等棚卸差額	1,655,972	0	1,655,972
館内サービス関係費	156,618	0	156,618
租税公課	17,147,975	0	17,147,975
雑費	126	0	126

（単位：円）

科　　目	公益目的事業会計	法人会計	合計
	公益		
管理費	**0**	**14,262,366**	**14,262,366**
給料手当	0	6,178,247	6,178,247
法定福利費	0	1,147,008	1,147,008
福利厚生費	0	189,007	189,007
旅費交通費	0	131,455	131,455
通信運搬費	0	458,536	458,536
減価償却費	0	39,962	39,962
印刷製本費	0	42,240	42,240
諸謝金	0	3,479,918	3,479,918
会議費	0	68,984	68,984
光熱水費	0	145,802	145,802
消耗品費	0	490,108	490,108
負担金	0	18,900	18,900
原稿写真委託報酬	0	204,850	204,850
支払手数料	0	219,439	219,439
賃借料	0	887,214	887,214
保険料	0	250,980	250,980
修繕費	0	122,266	122,266
租税公課	0	187,450	187,450
経常費用計	**262,080,576**	**14,262,366**	**276,342,942**
当期経常増減額	**△ 14,380,917**	**11,277,796**	**△ 3,103,121**
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
雑収入	0	30	30
経常外収益計	**0**	**30**	**30**
(1)経常外費用			
固定資産除却損	0	0	0
雑損失	0	0	0
経常外費用計	**0**	**0**	**0**
当期経常外増減額	**0**	**30**	**30**
他勘定振替前 当期一般正味財産増減額	**△ 14,380,917**	**11,277,826**	**△ 3,103,091**
他会計振替額	**7,796,104**	**△ 7,796,104**	**0**
当期一般正味財産増減額	**△ 6,584,813**	**3,481,722**	**△ 3,103,091**
一般正味財産期首残高			**81,745,654**
一般正味財産期末残高			**78,642,563**
Ⅱ　正味財産期末残高			**78,642,563**

公益事業予算対比

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

（単位:円）

	予算	実績	差異
(1)経常収益			
受取会費	**3,800,000**	**2,879,800**	**920,200**
事業収益	**234,798,000**	**239,652,244**	**△ 4,854,244**
事業収益	40,500,000	68,581,285	△ 28,081,285
受託事業収益	193,298,000	170,732,885	22,565,115
広告収益	1,000,000	338,074	661,926
受取補助金等	**1,000,000**	**4,707,546**	**△ 3,707,546**
受取助成金	1,000,000	4,707,546	△ 3,707,546
雑収益	**0**	**460,069**	**△ 460,069**
その他の雑収益	0	460,069	△ 460,069
経常収益計	**239,598,000**	**247,699,659**	**△ 8,101,659**
(2)経常費用			
事業費			
給料手当	121,500,000	129,217,231	△ 7,717,231
臨時雇賃金	23,000,000	24,047,986	△ 1,047,986
退職給付引当金繰入額	1,000,000	2,547,662	△ 1,547,662
法定福利費	18,500,000	20,165,798	△ 1,665,798
福利厚生費	500,000	469,524	30,476
旅費交通費	5,600,000	3,056,396	2,543,604
通信運搬費	14,000,000	13,172,802	827,198
減価償却費	180,000	342,897	△ 162,897
事務委託料	100,000	1,951,188	△ 1,851,188
印刷製本費	13,500,000	13,523,522	△ 23,522
諸謝金	600,000	502,061	97,939
会議費	500,000	205,283	294,717
光熱水費	400,000	464,677	△ 64,677
消耗品費	600,000	814,353	△ 214,353
負担金	16,900,000	1,200	16,898,800
原稿写真委託報酬	2,200,000	4,098,397	△ 1,898,397
支払手数料	700,000	983,562	△ 283,562
賃借料	3,600,000	3,615,103	△ 15,103
保険料	0	2,205	△ 2,205
修繕費	50,000	53,900	△ 3,900
著作権等使用料	50,000	15,500	34,500
教材等制作購入費	24,000,000	23,868,638	131,362
教材出版物等棚卸差額	1,000,000	1,655,972	△ 655,972
館内ｻｰﾋﾞｽ関係費	150,000	156,618	△ 6,618
租税公課	0	17,147,975	△ 17,147,975
雑費	0	126	△ 126
経常費用計	**248,630,000**	**262,080,576**	**△ 13,450,576**
当期経常増減額	**△ 9,032,000**	**△ 14,380,917**	**5,348,917**

貸借対照表

令和５年３月３１日 現在

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部	円	円	円
１．流動資産			
（１）　現金預金	21,173,752	19,911,491	1,262,261
（２）　未収入金	19,843,758	19,746,224	97,534
（３）　貯蔵品	35,591,505	37,247,477	△ 1,655,972
（４）　前払費用	2,037,268	2,031,093	6,175
流動資産合計	78,646,283	78,936,285	△ 290,002
２．固定資産			
基本財産			
（１）　基本財産特定資産	50,000,000	50,000,000	0
基本財産合計	50,000,000	50,000,000	0
その他の固定資産			
（１）　車輌	1	1	0
（２）　什器備品	1,243,692	720,787	522,905
（３）　退職給付引当資産	4,861,340	2,313,678	2,547,662
（４）　電話加入権	594,951	594,951	0
（５）　差入保証金	1,100,000	1,100,000	0
その他の固定資産合計	7,799,984	4,729,417	3,070,567
固定資産合計	57,799,984	54,729,417	3,070,567
資産合計	136,446,267	133,665,702	2,780,565

科目	当年度	前年度	増減
Ⅱ　負債の部	円	円	円
１．流動負債			
（１）　未払金	52,671,620	48,961,036	3,710,584
（２）　前受金	0	374,400	△ 374,400
（３）　預り金	270,744	270,934	△ 190
流動負債合計	52,942,364	49,606,370	3,335,994
２．固定負債			
（１）　退職給付引当金	4,861,340	2,313,678	2,547,662
固定負債合計	4,861,340	2,313,678	2,547,662
負債合計	57,803,704	51,920,048	5,883,656
Ⅲ　正味財産の部			
正味財産	78,642,563	81,745,654	△ 3,103,091
負債及び正味財産合計	136,446,267	133,665,702	2,780,565

貸借対照表明細表

令和５年３月３１日 現在

科　　目	金　　額		
	実施事業	法人会計	合　　計
	円	円	円
Ⅰ　資産の部			
１．流動資産			
（１）　現金預金	0	21,173,752	21,173,752
（２）　未収入金	19,843,758		19,843,758
（３）　貯蔵品	35,591,505		35,591,505
（４）　前払費用	2,037,268		2,037,268
流動資産合計	57,472,531	21,173,752	78,646,283
２．固定資産			
（１）　基本財産特定資産		50,000,000	50,000,000
基本財産合計		50,000,000	50,000,000
（１）　車輌	1		1
（２）　什器備品	1,243,692		1,243,692
（３）　退職給付引当資産	4,861,340		4,861,340
（４）　電話加入権	594,951		594,951
（５）　差入保証金	1,100,000		1,100,000
その他の固定資産合計	7,799,984		7,799,984
固定資産合計	7,799,984	50,000,000	57,799,984
資産合計	65,272,515	71,173,752	136,446,267
Ⅱ　負債の部			
１．流動負債			
（１）　未払金	51,427,620	1,244,000	52,671,620
（２）　前受金	0		0
（３）　預り金	270,744		270,744
流動負債合計	51,698,364	1,244,000	52,942,364
２．固定負債			
（１）　退職給付引当金	4,861,340	0	4,861,340
固定負債合計	4,861,340	0	4,861,340
負債合計	56,559,704	1,244,000	57,803,704
Ⅲ　正味財産の部			
正味財産	8,712,811	69,929,752	78,642,563
（うち当期正味財産増加額）	（　△ 6,584,813　）	（　3,481,722　）	（　△ 3,103,091　）
負債及び正味財産合計	65,272,515	71,173,752	136,446,267

計算書類に対する注記

令和５年３月３１日 現在

１　重要な会計方針

(1)　棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品は、最終仕入原価法に基づく原価法を採用している。

(2)　固定資産の減価償却の方法

固定資産については、定額法による減価償却を行っている。

(3)　引当金の計上基準

・退職給付引当金

職員に対する退職給付金の支給に備えるため、

退職金規程に基づく要支給額を前期より分割計上している。

(4)　消費税等の会計処理の方法

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

２　基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高はつぎのとおりである。

（単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産定期預金	50,000,000	0	0	50,000,000
合　　計　（基本金）	50,000,000	0	0	50,000,000

３　基本財産の財源の内訳

基本財産の財源の内訳はつぎのとおりである。

（単位：円）

科目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
基本財産				
基本財産定期預金	50,000,000	(0)	(50,000,000)	―
合　　計	50,000,000	(0)	(50,000,000)	―

４　固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、つぎのとおりである。

（単位：円）

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
車輌	620,830	620,829	1
什器備品	26,827,344	25,704,652	1,122,692
合計	27,448,174	26,325,481	1,122,693

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、つぎのとおりである。

（単位：円）

補助金等の名称	交付者	当期増加額	当期減少額	貸借対照表上の記載区分
助成金				
両立支援等助成金	厚生労働省	366,285	366,285	―
雇用調整助成金	厚生労働省	4,341,261	4,341,261	―
合計		4,707,546	4,707,546	

財　産　目　録

令和５年３月３１日 現在

（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
流動資産	現金預金			
	現金	手元保管	運転資金として	1,707,768
	普通預金	りそな銀行大阪営業部	運転資金として	1,548
		りそな銀行千里北支店	運転資金として	4,186,981
		みずほ銀行飯田橋支店	運転資金として	817,560
		みずほ銀行茨木支店	運転資金として	471,820
		三菱ＵＦＪ銀行大阪営業部	運転資金として	3,338,493
		三菱ＵＦＪ銀行大阪中央支店	運転資金として	1,718,239
		三井住友銀行大阪本店営業部	運転資金として	2,792,425
		三井住友銀行南千里支店	運転資金として	3,675,619
		京都信用金庫本店	運転資金として	21,826
		三井住友信託銀行大阪本店営業部	運転資金として	37,009
		関西みらい銀行千里丘駅前支店	運転資金として	9,497
		池田泉州銀行北千里支店	運転資金として	410,653
	振替口座	郵便振替	会費等受入口座	1,984,314
			<現金預金計>	**21,173,752**
	未収入金	国立民族学博物館	公・受託事業の受託料金	17,025,985
		株式会社西遊旅行　他	公・広告料他の受取	2,817,773
			<未収入金計>	**19,843,758**
	貯蔵品	書籍『季刊民族学』	公・ミュージアムショップの販売用在庫	3,187,346
		特別展図録	公・ミュージアムショップの販売用在庫	11,652,039
		その他書籍	公・ミュージアムショップの販売用在庫	5,367,422
		販売用オリジナルグッズ	公・ミュージアムショップの販売用在庫	11,743,268
		その他ショップ商品	公・ミュージアムショップの販売用在庫	3,641,430
			<貯蔵品計>	**35,591,505**
	前払費用	国立民族学博物館	事務室賃料	1,965,988
		大阪府　他	公・駐車料金　他	71,280
			<前払費用計>	**2,037,268**
流動資産合計				**78,646,283**

（単位：円）

基本財産	基本財産			
	定期預金	三井住友信託銀行大阪本店営業部	公益目的保有財産である	10,000,000
		三井住友銀行大阪本店営業部	公益目的保有財産である	10,000,000
		三菱UFJ銀行大阪営業部	公益目的保有財産である	10,000,000
		りそな銀行千里北支店	公益目的保有財産である	10,000,000
		池田泉州銀行北千里支店	公益目的保有財産である	10,000,000
			<基本財産計>	**50,000,000**
	その他の固定資産			
	車輌	日産セレナ	公益目的保有財産である	1
			<車輌計>	**1**
	什器備品	パソコン他事務機器	うち、公益目的保有財産 85.2%	1,059,704
			うち、管理目的保有財産 14.8%	183,988
			<什器備品計>	**1,243,692**
	退職給付引当資産			
	普通預金	りそな銀行千里北支店	退職給付準備資金	4,861,340
			<退職給付引当資産計>	**4,861,340**
	電話加入権	９回線	公益目的保有財産である	594,951
			<電話加入権計>	**594,951**
	差入保証金	(株)トーハン	公益目的保有財産である	1,000,000
		(株)キングレコード	公益目的保有財産である	100,000
			<差入保証金計>	**1,100,000**
固定資産合計				**57,799,984**
資産合計				**136,446,267**

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
流動負債	未払金	原稿料		18,733,910
		退職者	退職金	7,800,000
		社会保険庁　他	社会保険料	6,202,501
		吹田税務署	消費税、源泉所得税	4,320,960
		臨時雇賃金/給与手当		915,590
		海外民族学資料、書籍等売店関係	公・ミュージアムショップ商品仕入	5,404,734
		その他		9,293,925
			<未払金計>	**52,671,620**
	預り金	厚生年金他		207,744
			<預り金計>	**270,744**
流動負債合計				**52,942,364**
固定負債	退職給付引当金		公益目的事業 100%	4,861,340
			<退職給付引当金計>	**4,861,340**
固定負債合計				**4,861,340**
負債合計				**57,803,704**
正味財産				**78,642,563**

監　査　報　告　書

２０２３年５月26日

公益財団法人　千　里　文　化　財　団

理事長　中　牧　　弘　允　　殿

公益財団法人　千　里　文　化　財　団

監事　端　　信　　行

監事　光　武　和　子

私たち監事は、公益財団法人 千里文化財団 の２０２２年度（２０２２年４月１日から２０２３年３月３１日まで）の会計及び業務について監査を行いました。その結果につき次のとおり報告いたします。

１．監査の方法の概要

（１）会計監査については、会計帳簿及び関係書類の閲覧等、一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠して、決算書類の監査を行いました。

（２）業務監査については、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討しました。

２．監査意見

（１）正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益財団法人 千里文化財団 の２０２２年度末日現在の財政状態及び同事業年度の収支の状況を適正に表示しているものと認めます。

（２）事業報告書の内容は真実であると認めます。

（３）理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以　上

■令和４（2022）年度理事会及び評議員会の開催状況

□理事会

令和４年度第１回理事会（5 月 30 日開催　※オンライン併用）での審議事項

オンライン併用で開催し、下記の内容について諮り、全員が了承した。

審議事項：　第１号議案　令和３（2021）年度事業状況報告の承認の件
第２号議案　令和３（2021）年度収支決算報告の承認の件
第３号議案　評議員の辞任に伴う後任候補者の推薦の件
第４号議案　令和４年度第１回評議員会の招集及び付議議案の件

報告事項：　職務執行報告
（1）国立民族学博物館創設 50 周年記念事業、開館及び友の会発足 50 周年記念事業について
（2）事務局体制について

令和４年度第２回理事会（6 月 21 日開催　※みなし決議）での審議事項

下記の内容について諮り、報告事項とともに承認された。

審議事項：　第１号議案　評議員の辞任に伴う後任候補者の推薦の件
第２号議案　令和４年度第２回評議員会（書面）の招集及び付議議案の件

令和４年度第３回理事会（10 月 25 日開催　※オンライン併用）での審議事項

オンライン併用で開催し、下記の内容について諮り、全員が了承した。

審議事項：　第１号議案　令和４（2022）年度上半期実施事業報告について
第２号議案　令和４（2022）年度下半期追加事業報告について
第３号議案　事務局規程の改定の件
第４号議案　経理規程の改定の件
第５号議案　旅費規程の改定の件

報告事項：　（1）業務執行報告について
（2）令和５年度事業計画について
（3）海外での巡回展について
（4）立入検査について

令和４年度第４回理事会（令和５年２月 20 日開催 ※オンライン併用）での審議事項

オンライン併用で開催し、下記の内容について諮り、全員が了承した。

審議事項：　第１号議案　令和５（2023）年度事業計画（案）の承認の件
第２号議案　令和５（2023）年度収支予算（案）の承認の件
第３号議案　役員賠償責任保険の契約締結に関する承認の件
第４号議案　令和４年度第３回評議員会の招集及び付議議案の承認の件

報告事項：　（1）代表理事及び業務執行理事からの職務の執行状況について
（2）令和４年度追加事業について
（3）「新しい時代の公益法人制度の在り方に関する有識者会議」中間報告について
（4）大阪財団社団連合会への参加について
（5）事務局規程及び経理規程について
（6）令和５年度の理事会開催の予定について　※改選期

□評議員会

令和４年度第１回 評議員会（6 月 16 日　※オンライン併用）での審議事項

オンライン併用で開催し、下記の内容について諮り、全員が了承した。

審議事項：　第１号議案　令和３（2021）年度事業状況報告の承認の件
第２号議案　令和３（2021）年度収支決算報告の承認の件
第３号議案　評議員の辞任に伴う選任の件

報告事項：　理事会の審議事項等について

令和４年度第２回 評議員会（6 月 29 日　※みなし決議）での審議事項

下記の内容について諮り承認された。

審議事項：　議案　評議員の辞任に伴う選任の件

令和４年度第３回 評議員会（令和５年３月９日　※オンライン併用）での審議事項等

オンライン併用で開催し、下記の内容について諮り、全員が了承した。

審議事項：　第１号議案：令和５（2023）年度事業計画（案）の承認の件
第２号議案：令和５（2023）年度収支予算（案）の承認の件

報告事項：　理事会の審議事項等について